



United Nations
Office on Drugs and Crime



SPECIAL POINTS OF INTEREST

特記事項



W	O	R	L	D	2 0 2 6
	D	R	U	G	
R	E	P	O	R	

前書き

2026年版のUNODC世界薬物報告書をご紹介しますことを嬉しく思います。世界の薬物問題に関する最も包括的かつ権威ある評価・分析レポートである本報告書は国際社会に対し、薬物生産、取引、消費の動向、そしてそれらが健康、安全保障、地域社会に与える影響に関する重要なエビデンスを提供します。

世界的に不確実性が高まる今、信頼できる証拠はこれまで以上に重要です。麻薬市場はますます複雑化しており、技術変化、地政学的不安定、消費者需要の変化に急速に適応しています。これらのダイナミクスを理解することは、効果的に対応し、世界中の人々の健康、安全、福祉を守るために不可欠です。今年の報告書は、薬物使用およびそれに伴う害が増加し続けていることを示しています。

2024年には推定3億3100万人が薬物を使用しており、これは10年以上前より34%増加しています。これは人口増加とデータの収取可能性の向上を反映していますが、同時に薬物使用（乱用）経験率も高まっていることを示しています。そして薬物使用が増加するにつれて、より多くの人々が健康や社会的リスクにさらされています。しかし、薬物障害に対する医療のニーズが増え続ける中で、治療へのアクセスは依然として不平等です。世界の多くの地域では、サービスが不足しているか利用できず、特に女性や弱い立場のグループが、スティグマや差別のために回復や支援を受けられず、何百万人もの人々が残されています。その結果は致命的なものです。2023年には薬物使用で約50万人が亡くなり、10年以上前の29%に増加しています。これらの死は、世界の薬物問題がその核心として、命や家族、コミュニティに影響を与える人間の課題であることを思い起こさせます。同時に、違法薬物市場がより多様化し適応的になるにつれて、薬物使用に伴うリスクも高まっています。

本レポートで強調されている最も重要な動きの一つは、合成薬物市場の継続的な拡大です。2024年には、世界で755種類の新しい向精神活性物質（そのほとんどが合成物質）が報告され、これは単一年間で記録された過去最多の数となりました。この傾向は、合成物質の製造が容易になる一方で、検出や阻止が難しくなっていることを反映しています。アンフェタミン系の覚醒剤市場も拡大を続け、新たな地域に広がり、新たな消費者層に浸透しています。北米および東アジア、東南アジアが依然として最大のメタンフェタミン市場である一方で、他の地域で

例えば中東では、「キャプタゴン」の密輸が中断された後、メタンフェタミンの密輸が拡大し、犯罪組織が変化する状況に迅速に適応できることを示しました。植物由来の薬物市場は非常にダイナミックなままです。コカインの生産は過去10年間で前例のない水準に達し、栽培の拡大と需要に応じた生産の増加により4倍以上に増加しました。密輸業者はルートや手法を多様化し続け、小規模な港や新しい通過回廊、高度な技術を活用して国境を越えて商品を移動させています。一方、アフガニスタンのあへん栽培は歴史的に低い水準にとどまっています。これによりヘロインの世界的な供給の動態は大きく変わりましたが、合成代替品がアフガニスタン産のヘロインを消費市場に置き換えられるリスクもあります。市場の動向のレビューに加え、今年の報告書では薬物使用が社会に与えるより広範な影響を検証しています。それぞれの章では、薬物と安全性・セキュリティの関係を探り、薬物使用が暴力、犯罪、不安定化にどのように影響し、また影響を受け得るかを分析しています。特に若者は、薬物使用や薬物関連の暴力などの高リスクパターンにさらされることが多いです。これらの脆弱性を理解することは、効果的な予防および介入戦略を設計する上で不可欠です。

さらに、報告書は持続的な世界的な不平等にも注目しています。特に中低所得国では、規制の障壁、弱い流通システム、政策のギャップにより、必要な疼痛緩和へのアクセスは依然として限られています。今年の世界薬物報告書の調査結果は、すべての地域で規模、複雑さ、影響が進行している世界的な薬物問題を示しており、違法薬物取引に関連する脅威や害の収束が増大していることを示しています。効果を発揮するためには、それらへの対応は証拠に基づき、人々に焦点を当て、地域の文脈に合わせて調整されなければなりません。この版の世界薬物報告書が、各国が直面する薬物問題をよりよく理解し、包括的かつバランスの取れた対応を通じて対応するための有用なリソースとなることを願っています。公衆衛生、司法、安全保障のアプローチを組み合わせることで初めて、被害を減らし、命を救い、より安全で健康的で強靱な社会を築くことができます。



Monica Juma, Executive Director
United Nations Office on Drugs and Crime

© United Nations, June 2026. All rights reserved worldwide.

Sales no: E.26.XI.5

PRINT ISBN: 9789211550078

PDF ISBN: 9789211599794

EPUB ISBN: 9789211550085

Print ISSN: 2411-832X

Online ISSN: 2411-8338

著作権・利用に関する注意事項

本刊行物は、出所を明確に明記（承認）することを条件として、著作権者からの特別な許可を得ることなく、教育目的または営利を目的としない用途であれば、その全部または一部をいかなる形式でも複製することができます。お問い合わせは unodc-research@un.org までご連絡ください。国連薬物・犯罪事務所（UNODC）は、本刊行物を情報源として利用した出版物の寄贈を歓迎いたします。著作権者による書面での事前の許可がない限り、転売またはその他のいかなる商用目的での利用も固く禁じます。商用利用の許可申請（利用目的および複製意図の記述を含む）は、UNODC 調査・傾向分析課（Research and Trend Analysis Branch）宛てに、電子メール（unodc-research@un.org）にて提出してください。

免責事項

本刊行物で使用されている名称および掲載されている内容（スケッチや地図を含む）は、国連が特定の国、地域、都市、エリア、あるいはその当局の法的地位に関して、あるいは国境や境界線の画定に関して、いかなる意見を表明するものでもありません。企業名やライセンスを取得したプロセスの記載は、国連による推奨を意味するものではありません。本刊行物に含まれるリンクは読者の便宜のために提供されているものであり、本文中に示されたアクセス時点において正確なものです。国連は、それらの情報の正確性が継続されることについて一切の責任を負いません。また、外部ウェブサイトの内容についても責任を負いかねます。引用および謝辞は、国連が該当する著者、貢献者、実体、あるいは組織を必ずしも承認していることを意味するものではありません。

本報告書に関するご意見・ご感想は、下記宛先までお寄せください。

本資料は、上記に基づき、勝野眞吾（（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター 理事）の責任で翻訳したものである。

前書き	1
謝辞（略）	5
主要データの概略（図）	6
薬物使用者	6
薬物使用障害・治療	8
薬物の栽培、製造、不正取引	10
薬物犯罪取締システム	12
知見	15
紛争と紛争後の変化	16
薬物市場の動向	19
世界の薬物使用の現状	22
世界における薬物使用の影響	25
世界の薬物問題—共通の課題とそれぞれの地域の現状	29
世界の地域ごとの動向（地図）	30
薬物ごとの現状（まとめ）	32
地域ごとの現状（まとめ）	37
用語解説（省略）	42
地域区分名（省略）	43

主要データの概略（図）

薬物使用

薬物使用者 2024

331

百万人

↑ 34%
10 年間で



大麻

256

百万人



オピオイド

63

百万人



覚醒剤 (ATS)

32

百万人



コカイン

25

百万人

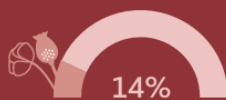


MDMA (エクスタシー)

21

百万人

薬物使用者のうち女性の割合 2024



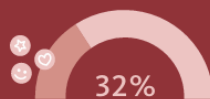
あへん系薬物



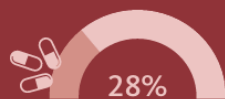
コカイン



大麻



MDMA (エクスタシー)



覚醒剤 (ATS)

薬物使用障害者 2024

63

百万人

治療を受けた者

1 in 12

または

8.2%

女性：治療を受けた薬物使用障害者

1 in 23



男性：治療を受けた薬物使用障害者

1 in 9



静脈注射による薬物使用者 2024

14

百万人

静脈注射による
薬物使用者

そのうち：



6.9

百万人

C 型肝炎ウイルス保有者



1.7

百万人

HIV 保有者



1.5

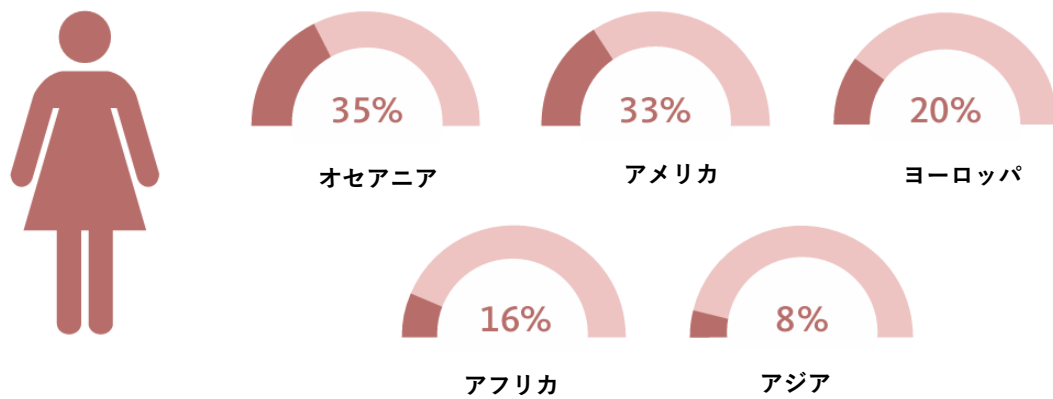
百万人

C 型肝炎ウイルス & HIV 保有者

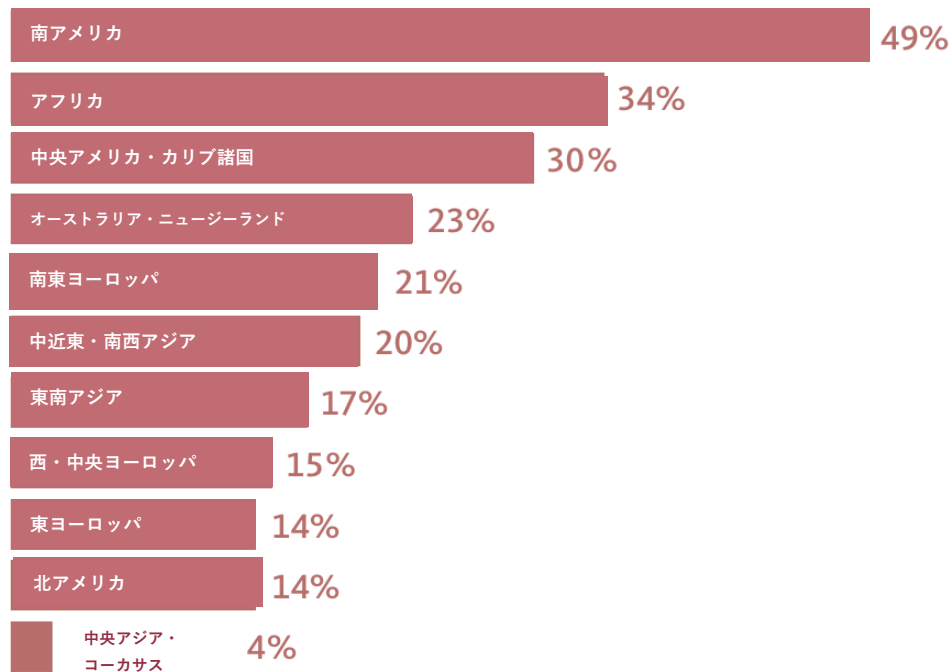
主要データの概略（図）

薬物使用障害治療

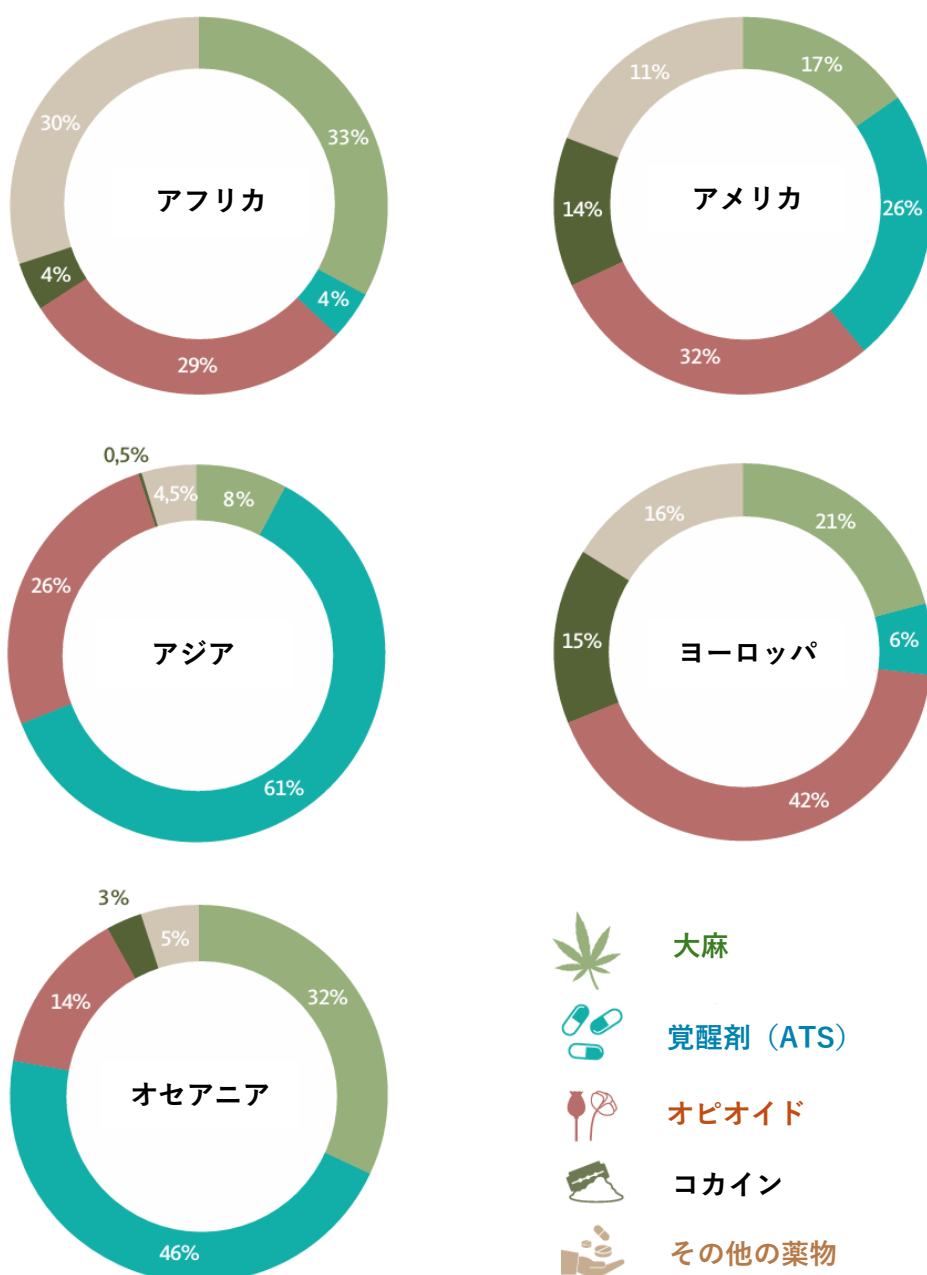
地域別の薬物使用障害で治療を受けている女性の割合 2024



地域別の薬物使用障害で治療を受けている者のうち 25 歳未満の割合 2024



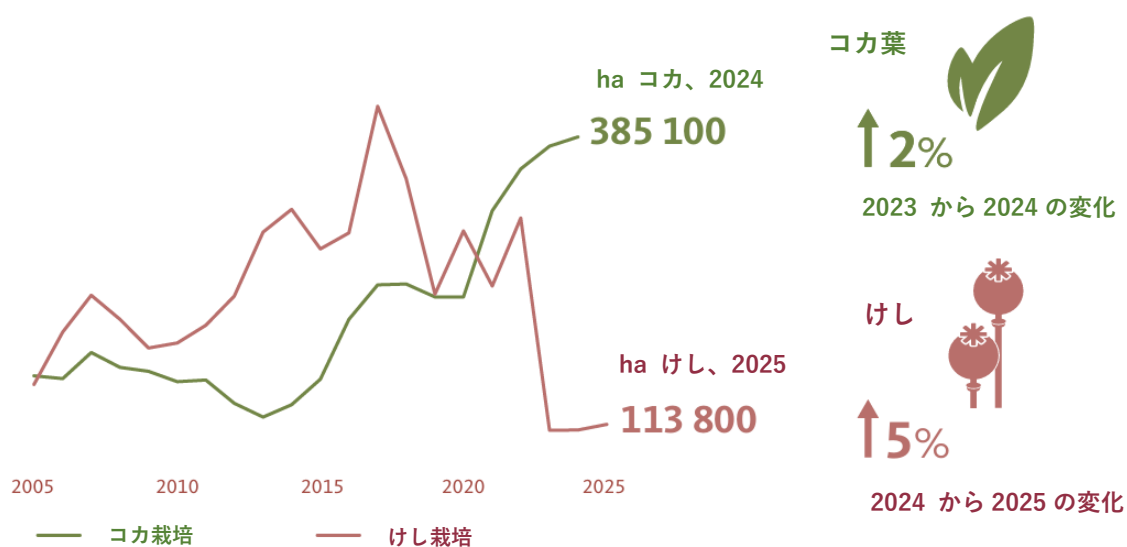
地域別の薬物使用障害で治療を受けている者の主要薬物 2024



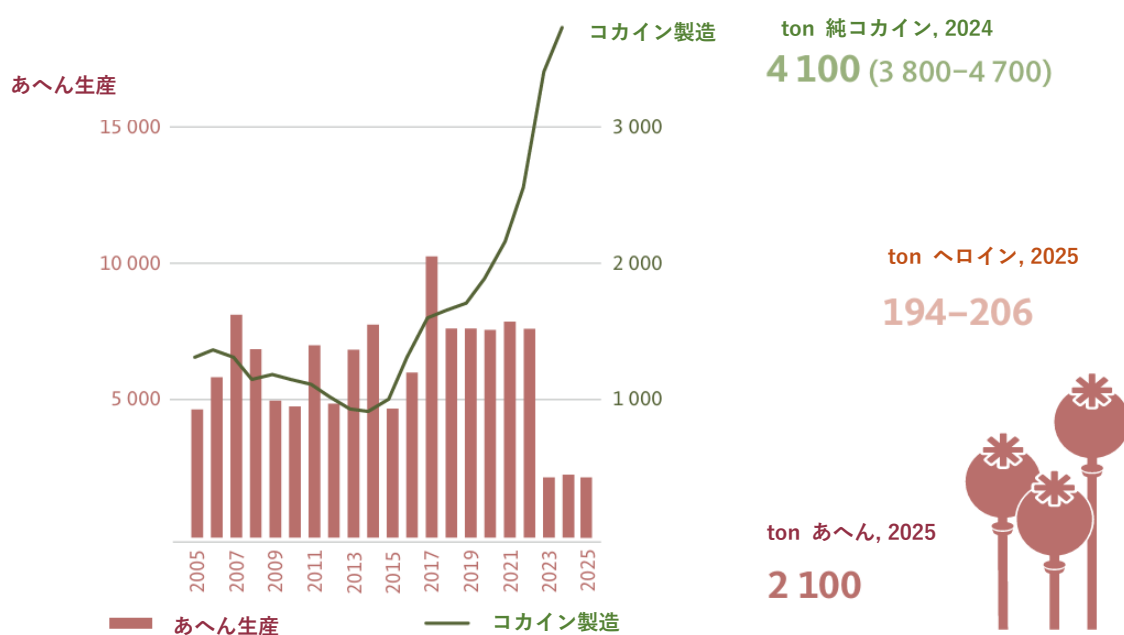
主要データの概略（図）

薬物の栽培、生産、不正取引

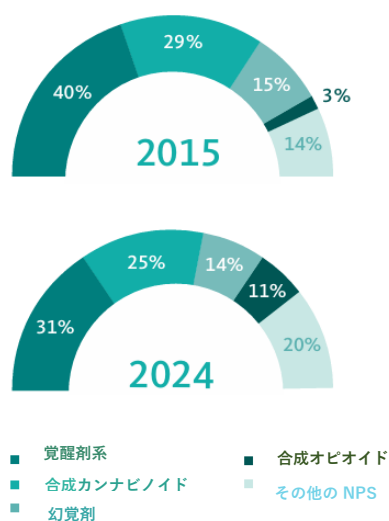
世界の薬物の起源植物の栽培



世界の植物由来薬物の生産



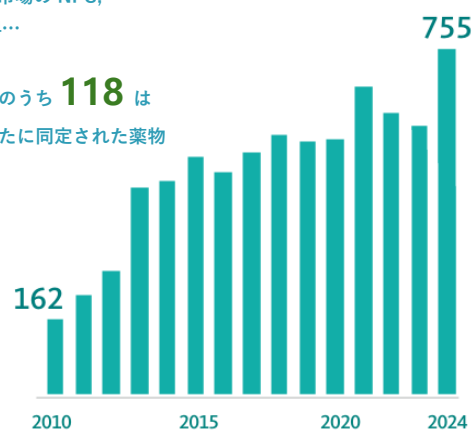
世界市場における新精神活性物質（NPS）



755

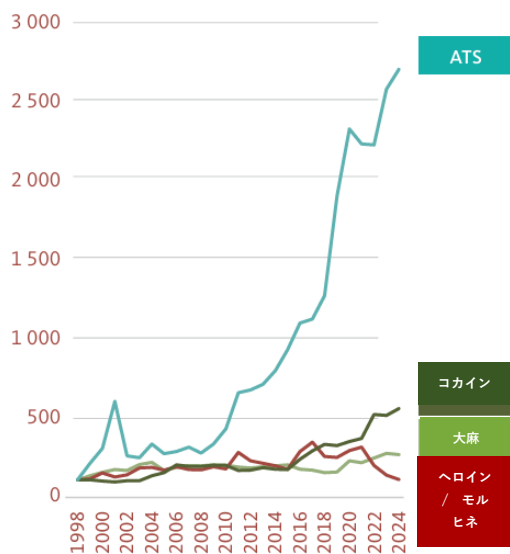
薬物市場の NPS,
2024...

そのうち **118** は
新たに同定された薬物

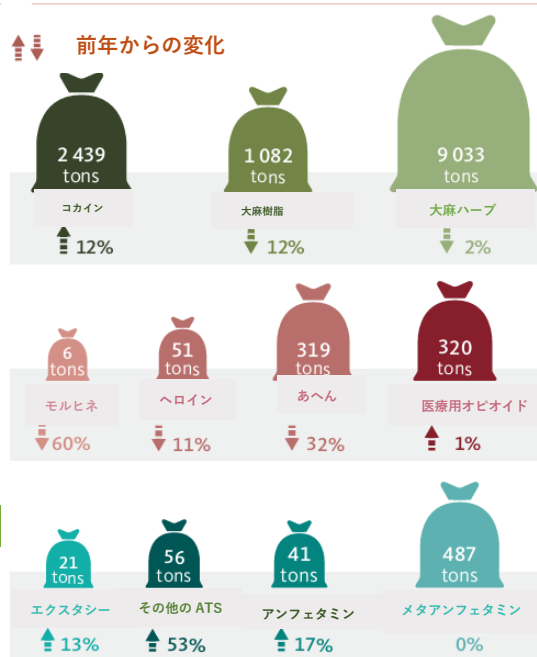


違法薬物押収量の推移

1998 年を 100
とした指標



世界の違法薬物押収量, 2024

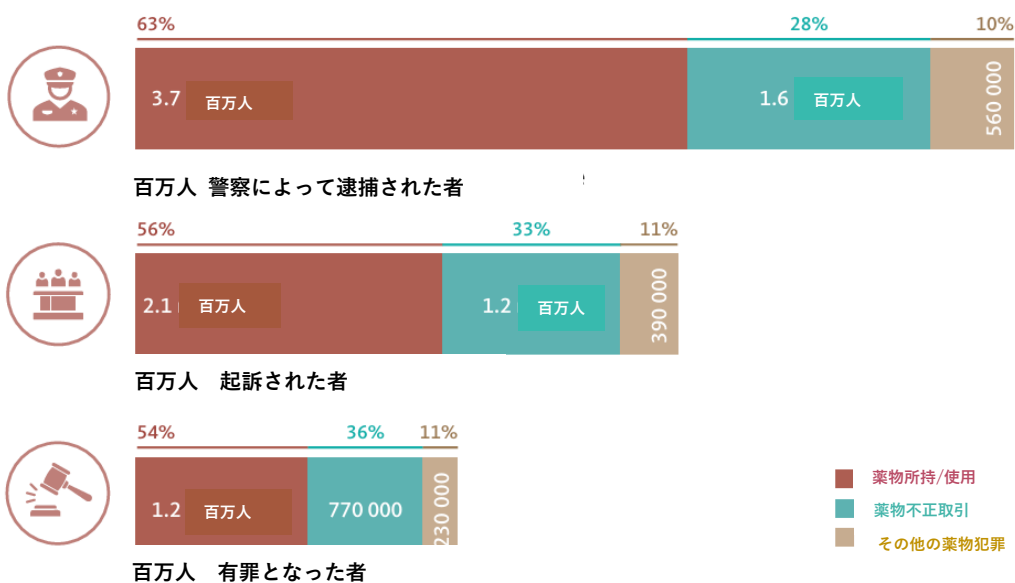


Note: Seizures of amphetamine include estimates for non-reporting countries.

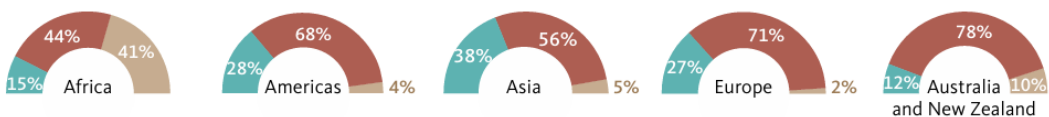
主要データの概略（図）

刑事司法システム

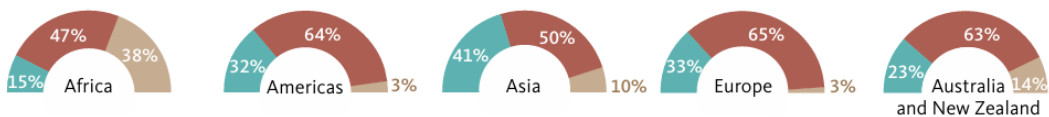
薬物犯罪による逮捕・起訴・有罪判決を受けたもの 2024



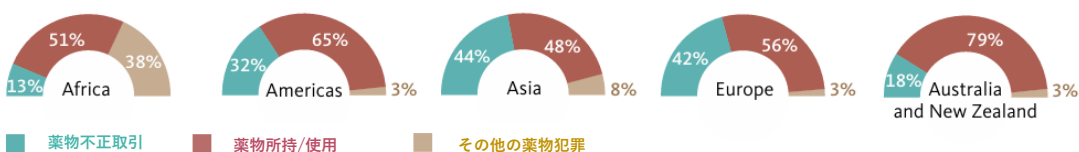
地域別の薬物犯罪によって起訴された者の内訳 2024



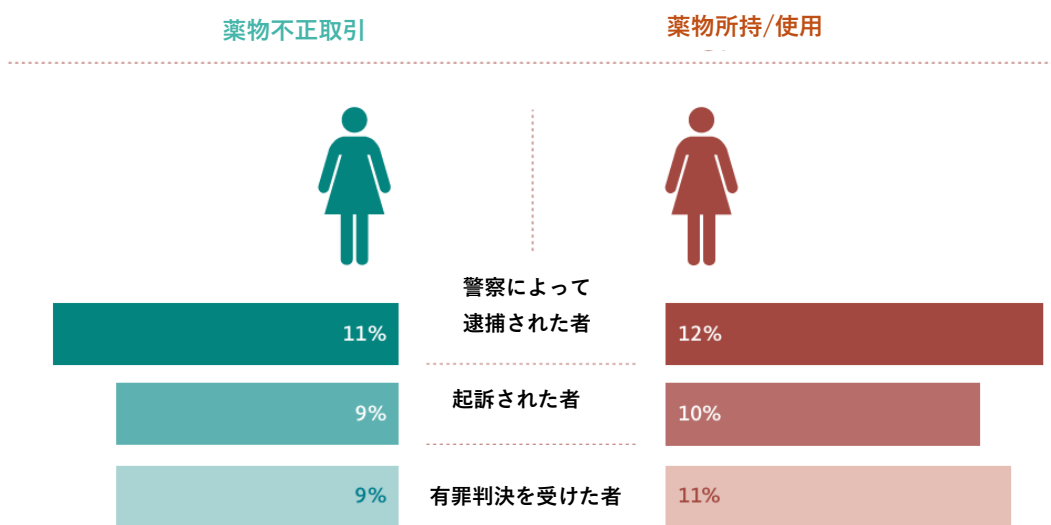
地域別の薬物犯罪によって警察に逮捕された者の内訳 2024



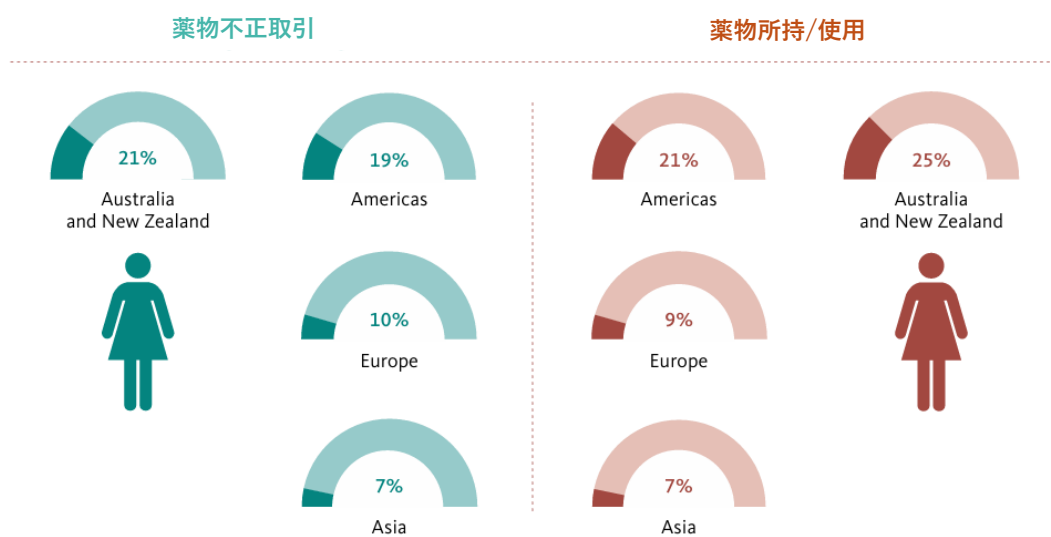
地域別の薬物犯罪によって有罪となった者の内訳 2024

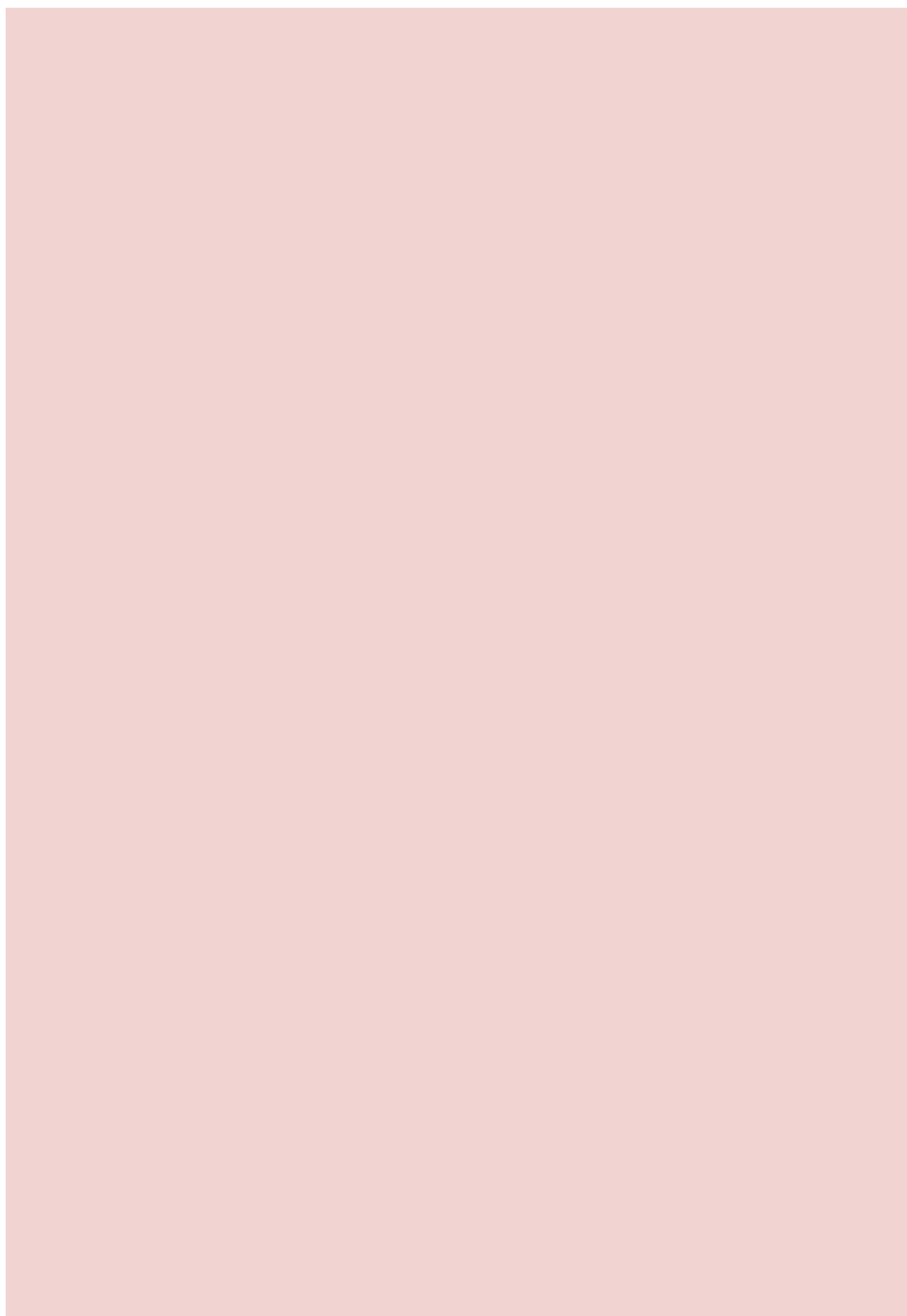


薬物事犯者のうち女性の割合 2024



地域別、警察に逮捕された薬物事犯者のうち女性の割合 2024





知見



知見

紛争と紛争後の変化

中近東および南西アジアにおける新たな紛争および紛争後の変化のサイクルは、世界の薬物市場に深刻な影響を与える可能性がある

中近東および南西アジア地域は、新たな紛争および紛争後の変化のサイクルに入り、地域および国際的な薬物市場に深刻な影響を与える可能性がある。シリア・アラブ共和国での紛争終結は「キャプタゴン」の既存の密輸・生産ネットワークを混乱させ、地域の動態を変えた一方で、メタンフェタミンの密輸は地域内外で盛んに行われている。同時に、アフガニスタンでのあへん生産の減少はヘロインの世界的な供給を再構築しており、供給がより有害な合成代替物質へとシフトする可能性を高めている。

「キャプタゴン」供給の混乱

シリア・アラブ共和国での紛争終結は「キャプタゴン」生産を断ち切り、薬物市場を支えるネットワークを弱体化させた。

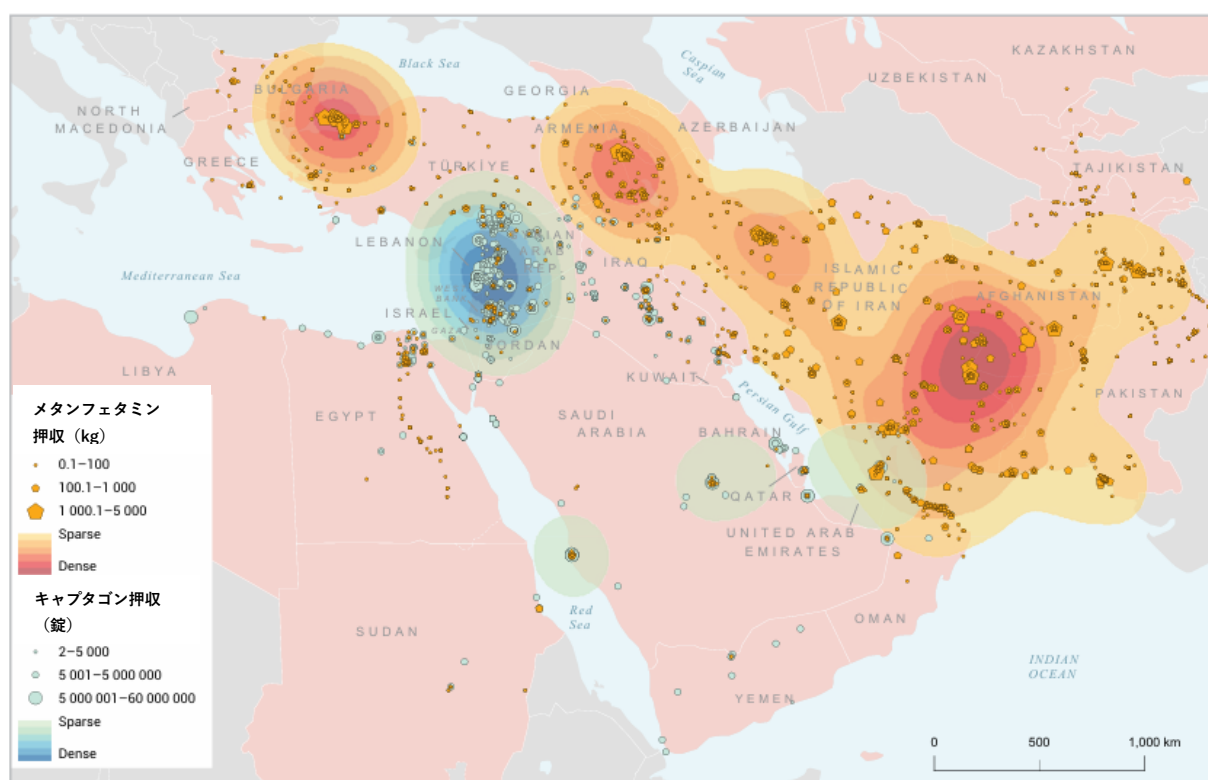
- ＞紛争と薬物市場は長年にわたり中近東で密接に結びついてきた。シリア・アラブ共和国の紛争とともに、通常アンフェタミンを含有するとされる違法製造薬物「キャプタゴン」の市場は拡大した。この覚醒薬は戦場で使用されたが、特に湾岸諸国など広範囲の地域でも市場に広がった。国内生産は国境をまたいだ施設によって補完されていた。シリア・アラブ共和国の国境地域を越えて活動する、強固な犯罪ネットワークが市場にサービスを提供するために成長した。
- ＞ 紛争の終結と 2024 年末の政権交代は、「キャプタゴン」製造のダイナミクスを一変させた。同国の当局は、2024 年 12 月以降、主に工業規模の 16 の化学製造施設と 15 の小規模保管施設が撤去されたと報告している。化学製造施設の運営者も「キャプタゴン」の在庫を処分しようと試みており、その結果、2025 年にはシリア・アラブ共和国とレバノンで密輸と押収件数が急増した。
- ＞ シリア・アラブ共和国およびレバノン国境を越えたネットワークの弱体化と地域での同盟の再編成は、両国国境付近での法執行の大きな成功を可能にしたと考えられる。その結果、レバノンで販売される「キャプタゴン」錠剤の価格は 2～3 ドルから 5～7 ドルへと倍以上に上昇した。

中近東におけるメタンフェタミンの拡大

「キャプタゴン」市場の最近の混乱と南西アジアにおけるメタンフェタミン供給の拡大を背景に、メタンフェタミンは中近東で根付きつつある。

- ＞中近東における「キャプタゴン」市場の変化は、この地域におけるメタンフェタミンの需要と供給の両方が増加していることを示す証拠である。湾岸諸国では、近年メタンフェタミンが薬物過剰摂取と関連している。サウジアラビアでは、その使用は以前「キャプタゴン」を使っていた者の間で根付いたと考えられている。メタンフェタミンは現在、大麻や「キャプタゴン」と並ぶ国内で最も使用されている薬物の一つとされている。中近東の一部国では、メタンフェタミンが薬物関連障害の治療入院の最大の割合を占めている。イラクとトルコでも、メタンフェタミンは薬物障害治療の主要な懸念薬物となっている。
- ＞ 中近東におけるメタンフェタミン製造施設の存在は限定的であり、その大部分は東方の国々で製造された物であると報告されている。イスラム共和国イランを経由し中近東市場に流入する多くのメタンフェタミンの製造地は南西アジアと疑われているが、確認分析や証拠は限られている。

中近東と南西アジアにおけるメタンフェタミン及び「キャプタゴン」の主要な押収地域、2021-2025



The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations. Dotted line represents approximately the Line of Control in Jammu and Kashmir agreed upon by India and Pakistan. The final status of Jammu and Kashmir has not yet been agreed upon by the parties. Final boundary between the Republic of Sudan and the Republic of South Sudan has not yet been determined.

Source: UNODC Drugs Monitoring Platform.

メタンフェタミンは主に東方から中近東に流れ込み、イラン(イスラム共和国)とイラクの陸上国境を越えたり、海路で直接アラビア半島に流れ込んでいる。「キャプタゴン」は一般的には別のルートで密輸されている。しかし、メタンフェタミンは「キャプタゴン」と共通の前駆体化学物質を共有しているため、原則として同じ製造施設で両方の薬物が製造されるリスクがある。2024年5月、イラクのイスラム共和国国境近くの北東部スレイマニヤ州で、「キャプタゴン」とメタンフェタミン製造の製造施設が解体された

知見

紛争と紛争後の変化

オピオイド市場における転換点

アフガニスタンにおけるあへん生産の急激な減少は、長期的な影響を伴う世界的な供給ショックを生み出している。

- > オピオイドと紛争の絡み合いは何世紀にもわたって続いた。近年では、アフガニスタンの紛争が世界的なオピオイド供給のパターンを形作ってきた。この国は2022年まで世界で最も支配的なヘロイン供給源であったが、2023年から薬物生産禁止を施行し始めた。それ以来、けしの栽培と生産は95%も崩壊した。2025年のけし栽培面積は禁止前の水準を大きく下回る10,200ヘクタールで、2022年の推定23万2,000ヘクタールに比べると、ごく一部に過ぎない。あへん生産量も同様に混乱しており、2022年の6,200トンから2025年には推定296トンに減少している。国内の薬物禁止令はオピオイドの供給を大きく妨げたが、一方、地域でのあへんの押収量が増加し、卸売価格が下落し続ける中で、メタンフェタミン供給の指標はほとんど影響を受けていない。
- > アフガニスタンの薬物禁止令によって世界的なヘロイン供給に影響を受ける可能性が高いものの、UNODCが定期的に監視している他の国(ラオス人民民主共和国、メキシコ、ミャンマー)では、アフガニスタンによる供給の空白を埋めるために生産レベルを増やそうしている国はない。ミャンマーは現在、違法あへんの最大の生産国であり、2021年の約420トンから2025年には1,000トン以上に増加している。しかし、この増加はアフガニスタンの減少ではなく、同国の国内紛争への対応による。

- > 非公式データでは、けし栽培はアフガニスタン周辺の国々に移されているようである。2022年から2023年にかけて、インドとパキスタンでUNODCに報告された根絶されたけしは2倍以上になった。これらの初期報告は、アフガニスタンのデータによって裏付けられている。過去1年間で乾燥あへの価格は下落したものの、依然として禁止前の水準を大きく上回っている。
- > 世界の一部の地域では将来的にけしの違法栽培やあへん生産が続く可能性が高いものの、主要なヘロイン市場は依然として供給制約に直面している。確かな推定では、アフガニスタンのあへん在庫は2026年末まで持ちこたえる可能性があるとされている。アフガニスタンからの供給が減少しているという推定は、アフガニスタンの男性を対象とした調査データによって裏付けられており、長らく同国で支配的だったオピオイドよりも、医薬品オピオイドや鎮静剤、鎮静剤の問題で薬物障害の治療を求める人の方が多いことが示されている。
- > しかしながら、たとえアフガニスタン国外で違法なけし栽培が増加したとしても、農家が迅速に栽培を拡大したり、不正取引業者が密輸ネットワークの再構築を行ったりすることは難しいと思われる。より可能性が高いのは、不正取引業者がフェンタニルやニタゼン、いわゆるオルフィンなどの合成オピオイド代替品に頼り、世界の違法オピオイド市場を事実上再構築することである。例えばニタゼンは、西ヨーロッパや中央ヨーロッパで押収が増加しており、2022年以降数百人の死亡原因となっている。

麻薬市場の動きは急速に変化しており、不正取引業者は取締りに適応し、新たな機会を活用している。

世界の麻薬取引市場は急速に変革を遂げており、生産拡大、ルートのシフト、薬物の多様化が進んでいる。コカインの供給はかつてない水準にまで急増し、新たなルートや技術、小規模な貨物を活用して検知されるのを回避する適応型密輸戦略が導入されている。同時に、大麻取引のパターンも変化しており、地域間の流入や新たな供給国の増加が見られる。これらの動きは合成薬物の台頭と並行して進行しており、これらは不正取引業者に物流的および経済的優位性をもたらしている。これらの傾向は、より複雑でダイナミックで競争の激しい世界の薬物市場を浮き彫りにしており、薬物のサプライチェーンと法執行機関の対応の両方を再構築させている。

コカインの密輸

世界のコカイン供給は拡大するとともに密輸ルートと戦略が変化している。

- ＞ 2014 年直近の低調以降、純粋コカインの潜在生産量は 4 倍以上に増加し、2024 年には 4,000 トンを超えている。これは主に栽培面積の増加と生産性の向上によるものである。
- ＞ 2024 年の最新データによると、コカイン生産は引き続き増加しており、押収件数も概ねそれに追従している。これは、消費者向けの純供給量も同じペースで増加し、目的地市場でのコカインの供給が急増する可能性が高いことを示唆している。これを反映して、2024 年にはいくつかの主要な通過国で卸売価格が下落した。
- ＞ 2024 年には密輸パターンが多少変化しつつある兆候があった。押収総量は西ヨーロッパおよび中央ヨーロッパ全体で減少し、ベルギー、ドイツ、オランダの主要港から小規模港へ、さらにはフランス、ポルトガル、スペイン全体へと移動した。いくつかのヨーロッパ諸国では、港湾でのコンテナ関連の件で押収された量が少なくなり、南米ではさらにヨーロッパ向けコカインが押収された。2024 年の南米における世界的な押収の割合は 64% で、1984 年以来的の最高水準であった。
- ＞ 2024 年には、アメリカ大陸におけるコカイン塩基の出荷からヨーロッパでの塩酸コカイン押収に至るまで、

サプライチェーン全体で小規模な動きが見られた。また、コカイン押収の歴史が限定的である小規模なヨーロッパの港もますます利用されるようになっており、この動きは早く、2023 年から始まっているようである。これは、規制措置の変化に対応して密輸業者がリスクの低い方法へと戦略的に転換していることを示唆している。

- ＞ これらのルートや薬物量の規模の変化は、密輸業者が自らの事業を支援するために空中・水中ドローンなどの技術革新を段階的に進めている中で起きている。空中ドローンは、コカイン密輸だけでなく、国境を越えて薬物を刑務所へ運搬する手段として、あるいは監視や武器としても利用が進んでいる。

大麻の密輸

大麻市場はますます地域間での流れが加速しており、新たな供給源や取引パターンが現れている。

- ＞ 大麻の栽培はほぼすべての国で行われており、大麻ハーブの密輸は主に地域内で行われ続けている。一方で地域間の密輸は着実に増加している。この傾向は、アフガニスタン、モロッコ、オランダのように歴史的に重要な役割を果たした国々に起因するものではなく、北米諸国が一般的な出発点になっている傾向が強くなった。2015 年から 2024 年の間に亜地域外の 57 か国または地域が出荷地域となっており、2005 年から 2014 年の 11 か国から増加した。

薬物市場の動向

商業的サプライチェーンに、大麻が一時的であっても参入している国々では、他の違法市場向けの大麻調達への利用が増えている。ヨーロッパにおける違法薬物市場への主要な入口は、かつてはベルギーのアントワープ港など他の薬物と関連していたものであったが、オランダのロッテルダム、ドイツのハンブルクでは、新しいルートで大麻が運搬されるケースが増えている。合法・違法両方の市場競争や、それらの場面での相互作用が、より多様な大麻製品の出現と効力の増加に関係している可能性がある。

合成薬物と製品の多様化

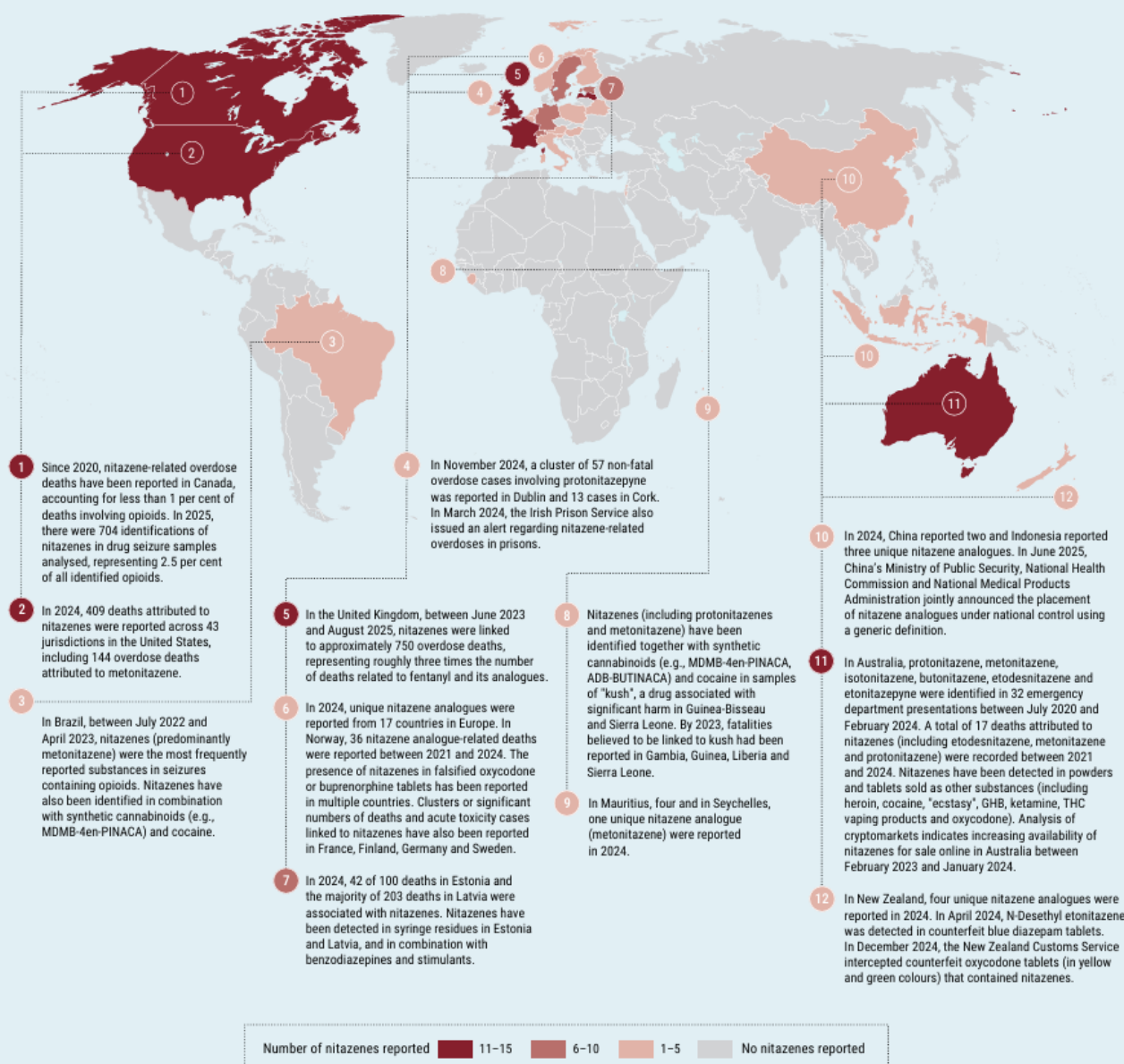
合成薬物は世界市場を再形成しており、不正取引業者に植物由来の薬物に比べて、柔軟性と競争優位性を提供している。しかし、これは深刻な健康被害を増やす可能性も伴うものである。

- ＞ コカインと大麻が継続的に薬物市場を支配している一方、合成薬物の数と入手可能性が増加し、植物由来薬物に取って代わる脅威となっていることが示されている。植物由来薬物との置き換えは、主にアンフェタミンやメタンフェタミンのような合成覚醒剤、さらにフェンタニルやニタゼンなどの合成オピオイドによるものである。
- ＞ メタンフェタミン市場は世界最大の合成薬物市場である。北米、東アジア、東南アジア、オーストラリアやニュージーランドなどの伝統的な市場を超えて、新たな市場へと拡大し、世界的に広がりつつある。世界のメタンフェタミン押収の傾向は、2024年時点で年間約13%の成長率を示しており、これは主に東アジアおよび東南アジアでの押収量による。ミャンマーは2000年代後半以降、この地域のメタンフェタミン市場の主要な供給国であり続けている。しかし、現在、同国は北米やアフリカからの新たな供給ルートからの競争に直面しているようである。メタンフェタミン市場の拡大は、この薬物に関連する有害な影響や依存症の発症の可能性が高いことから、特に懸念される。
- ＞ 一部の合成薬物は、違法作物の栽培に依存しないため、特定の気候地域や地形に縛られず、植物由来の薬物に比べて競争優位性がある。合成薬物は原料も少なく、密造スペースも小さくすむため不正取引業者にとって経済的な魅力がある。また、目的地市場に近い

場所で生産されるため、インターセプトのリスクが低減される。

- ＞ 合成生産サイクルの主な制約要因は、化学的専門知識と前駆体化学品や機械の入手可能性とコストである。これらの障壁は、情報の自由な流れと多様な国際貿易チャネルが特徴のグローバル化・デジタル化された世界では、あまりにも簡単に乗り越えられてしまう。
- ＞ 過去20年間で市場に出ている薬物の数は爆発的に増加し、2000年以前の5倍の新しい薬物が押収されている。これらの多くが合成薬物である。世界市場では新精神活性物質（NPS）の数が増加しており、その多くは合成薬物である。2024年には、世界中の早期警戒システムによって記録された755件のNPSが記録された。フェンタニル、トラマドール、ケタミンなどの特定の医薬品の誤用を除けば、どのNPSも従来の規制薬物に匹敵する優位性があり、世界レベルでそれらの総合的な害を抑制できていないのが現状である。
- ＞ 不正取引業者や密売人は、特に若者をターゲットに、鮮やかなブランドや新しい形態の薬物を展開している。これらの製品は、使用者が複数の薬物を無意識のうちに摂取していることが多いため、追加のリスクも伴う。サンプルには化学組成に大きなばらつきがあり、合成オピオイドなど特に有害な薬物が含まれていることもある。例としては、「トゥシビ」や「ピンクコカイン」などがある。これは主にアメリカ大陸のクラブ客向けに販売されている粉末で、ケタミン、MDMA、メタンフェタミン、コカイン、オピオイドなどの薬物を含む可能性がある。さらに、「ハッピーウォーター」混合液は東アジアおよび東南アジアで押収されている。このレディ・トゥ・ドリンクには、ケタミンからMDMAなど含まれる。「パーティーロリポップ」もこのサブリージョンで登場しており、ベンゾジアゼピン、トラマドール、ケタミンなどを含む成分が含まれている。香港、中国、シンガポールでは、若者に使われている「スペースオイル」または「Kポッド」と呼ばれるベーパー製品に鎮静剤エトミド酸が検出された。西アフリカで人気のある「クシュ」には、合成カンナビノイド、NPSオピオイド（ニタゼン）、その他の化学物質が含まれる。合成カンナビノイド、半合成カンナビノイド、コカインやヘロインなど多くの物質を含むベーパー製品が北米やヨーロッパで検出されている。オーストラリアのサンプルにはニタゼンが含まれていた。

新しいニタゼン類似体の数と押収 2024



The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

Final boundary between the Republic of Sudan and the Republic of South Sudan has not yet been determined.

Dotted line represents approximately the Line of Control in Jammu and Kashmir agreed upon by India and Pakistan. The final status of Jammu and Kashmir has not yet been agreed upon by the parties.

A dispute exists between the Governments of Argentina and the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland concerning sovereignty over the Falkland Islands (Malvinas).

Source: UNODC, Early Warning Advisory on New Psychoactive Drugs; national reports.

凡例（色の区分：報告されたニタゼンの種類数）

- 11-15: 11～15 種類
- 6-10: 6～10 種類
- 1-5: 1～5 種類
- No nitazenes reported: ニタゼンの報告なし

①～⑫の地域別解説

① カナダ

2020 年以降、カナダではニタゼンに関連する過剰摂取（オーバー・ドース）死亡が報告されているが、オピオイドに関連する全死亡の 1%未満にとどまっている。2023 年には、分析された薬物押収サンプルから 704 件のニタゼンが確認され、これは特定されたすべてのオピオイドの 2.5%に相当する。

② アメリカ合衆国

2024 年、米国における 43 の管轄区域でニタゼンに起因する死亡が 409 件報告され、そのうち 144 件はメトニタゼン（metonitazene）に起因する過剰摂取（オーバー・ドース）死亡であった。

③ ブラジル

ブラジルでは、2022 年 7 月から 2023 年 4 月にかけて、押収されたオピオイドの中でニタゼン類（主にメトニタゼン）が最も頻繁に報告された薬物であった。また、合成カンナビノイド（MDMB-4en-PINACA など）やコカインと組み合わせられた形でのニタゼン類も確認されている。

④ アイルランド

2024 年 11 月、ダブリンで 57 件、コークで 13 件のプロトニタゼン（protonitazene）が関与する致死に至らない過剰摂取（オーバー・ドース）事例が集団発生（クラスター）した。2024 年 3 月には、アイルランド刑務所局も刑務所内でのニタゼン関連の過剰摂取（オーバー・ドース）に関する警戒情報を発出した。

⑤ イギリス

英国では、2023 年 6 月から 2025 年 8 月の間に、ニタゼン類が約 750 件の過剰摂取（オーバー・ドース）死亡に関連しており、これはフェンタニルおよびその同効体に関連する死亡数の約 3 倍に相当する。

⑥ ヨーロッパ（広域）

2024 年、欧州の 17 カ国から独自のニタゼン同効体が報告された。ノルウェーでは、2021 年から 2024 年にかけて 36 件のニタゼン同効体関連死が報告された。偽造オキシコドンやブプレノルフィン錠剤へのニタゼンの混入が複数国で報告されている。多数の死亡や急性中毒事例に関連するニタゼンの存在は、フランス、フィンランド、ドイツ、スウェーデンでも報告されている。

⑦ エストニアおよびラトビア

2024 年、エストニアにおける 100 件の死亡のうち 42 件、およびラトビアにおける 203 件の死亡の過半数がニタゼンに関連していた。エストニアとラトビアでは注射器の残渣からニタゼン類が検出されており、ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬や覚醒剤との混用も確認されている。

⑧ ギニア、シエラレオネ、ガンビア

ニタゼン類（プロトニタゼンおよびメトニタゼンを含む）が、合成カンナビノイド（MDMB-4en-PINACA、ADB-BUTINACA など）やコカインとともに、ギニアビサウおよびシエラレオネで重大な危害と関連している薬物「クシュ（kush）」のサンプルから検出された。2023 年までに、クシュに関連するとみられる致死事例がガンビア、ギニア、リベリア、シエラレオネで報告されている。

⑨ モーリシャスおよびセーシェル

2024 年、モーリシャスで 4 種、セーシェルで 1 種の独自ニタゼン同効体（メトニタゼン）が報告された。

⑩ 中国およびインドネシア

2024 年、中国は 2 種、インドネシアは 3 種の独自ニタゼン同効体を報告した。2025 年 6 月、中国の公安部、国家卫生健康委員会、国家薬品监督管理局は共同で、包括的な定義を用いてニタゼン同効体を国内規制対象に指定することを発表した。

⑪ オーストラリア

オーストラリアでは、2020 年 7 月から 2024 年 2 月の間に救急外来受診事例の 32 件からプロトニタゼン、メトニタゼン、イソトニタゼン、プトニタゼン、エトデスニタゼン、エトニタゼピンが確認された。2021 年から 2024 年の間に、ニタゼン類（エトデスニタゼン、メトニタゼン、プロトニタゼンを含む）に起因する死亡が計 17 件記録された。粉末や錠剤、さらにヘロイン、コカイン、「エクスタシー」、GHB、ケタミン、THC リキッド（vaping products）、オキシコドンといった他の物質との混用からもニタゼン類が検出されている。クリプトマーケット（闇市サイト）の分析からは、2023 年 2 月から 2024 年 1 月の間にオーストラリア国内のオンライン販売でニタゼンの入手可能性が増加したことが示されている。

⑫ ニュージーランド

2024 年、ニュージーランドで 4 種の独自ニタゼン同効体が報告された。2024 年 4 月、偽造ジアゼパム錠剤から N-Desethyl etonitazene が検出された。2024 年 12 月、ニュージーランド税関はニタゼンを含有する偽造オキシコドン錠剤（黄色および緑色）を水際で押収した。

世界の薬物使用は増加し続けている。その一方、多くの国で疼痛管理や緩和ケアのための医薬品オピオイドへのアクセスは十分ではない。

薬物使用は依然として重要かつ進行を続ける世界的問題であり、薬物消費の増加とパターンの変化が世界中の公衆衛生システムに大きな負担をかけている。大麻やコカインからオピオイド、合成薬物に至るまで、さまざまな薬物を使用する人が増えており、その影響は地域、年齢層、性別によって異なる。これらの傾向は、医療へのアクセス、規制枠組み、薬物使用に対する態度の変化など、より広範な社会的・経済的・政策的要因と密接に関連している。

世界の薬物使用

薬物使用は世界的に増加し続けており、その影響は男女によって異なる。

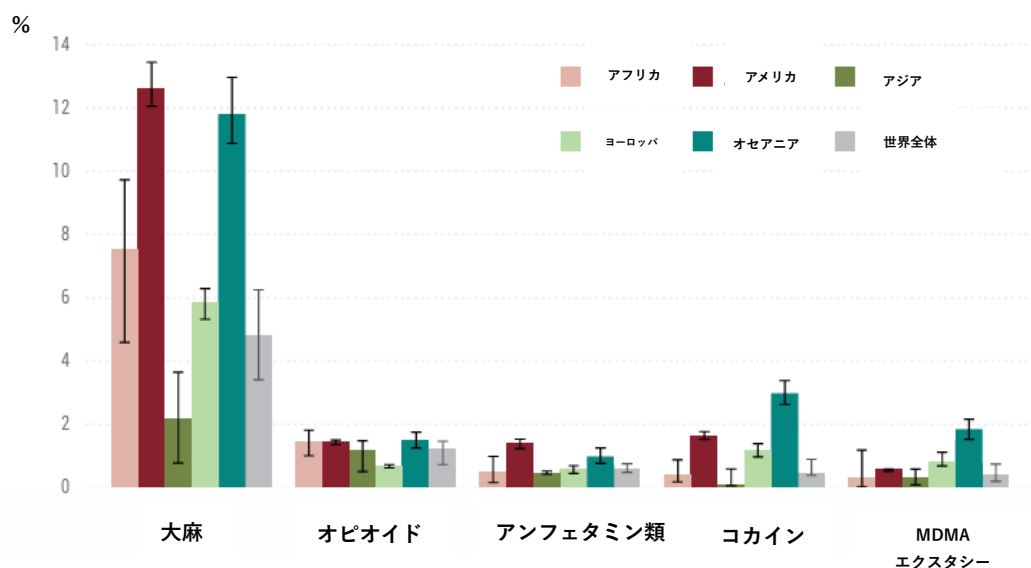
- >全体として、世界中で薬物使用は増加し続けている。
2024年には、3億3100万人が過去1年間に薬物を使用したと推定されている。これは10年以上前から34%の増加であり、人口増加の影響もあるが、使用頻度の増加も反映している。アメリカ大陸とアジアは薬物使用者が最も多く(それぞれ1億500万人)、最深刻地域となっている。
- >大麻は依然として最も多く使われている薬物である。
2024年時点で世界で推定2億5600万人が大麻を使用しており、過去10年間で40%の増加を示した。北米は大麻使用者数が最も多い地域である。
- >世界で推定2,500万人がコカインを使用しており、10年以上前から3分の1以上増加している。主な市場は北米および西・中央ヨーロッパの状況が続いている。後者の亜地域では、「クラック」コカインの使用が近年増加しているようである。
- >オピオイドの使用は概ね安定している。世界で推定6,300万人がオピオイドを使用しており、そのうち半数が植物由来のオピオイドを使用している。南アジアはオピオイドを使用する者の数が最も多い地域であるが、それは人口の規模を反映しているためであり、使用率が非常に高いわけではない。中近東や北アメリカなどの他の亜地域では、過去1年の経験率が高い。

- >2024年には推定3,200万人がアンフェタミン類を使用した。アンフェタミン類は北米で最も使用率が高く、使用者の実人数では、東アジアおよび東南アジアが最も多い。これらのアンフェタミン類の主要な種類に加え、データ不足のため世界的な推定値が定期的に得られない他の広く使用されている薬物も存在する。これらには一部の幻覚剤やサイケデリックス、最近規制された薬物、NPS、オピオイドやアンフェタミン類以外の医薬品の非医療的使用が含まれる。
- >広く眺めると、男性や少年は女性や少女よりも薬物を使用する可能性ははるかに高い。男性は女性より約3倍薬物使用者が多いが、この比率は薬物や地域によって異なる。男性は若い頃から薬物を使用し始める傾向がある。一方、女性はより早く依存に陥る傾向があり、これを「テレスコピング(伸縮)効果」と呼ぶ。薬物使用を始める動機も異なる。男性は同調圧力やセンセーション追求に影響されやすい。一方、女性は精神的な問題や痛みに対しての自己治療を目的とすることが多い。

若年層の薬物使用

- 若者は依然として薬物使用のリスクが高いが、薬物の消費パターンや薬物に対する認識は変化している。
- >思春期は脳が発達過程にある重要な時期である。
思春期の薬物使用は、行動、感情、認知に長期的な影響を及ぼし、精神的な健康問題を引き起こす可能性がある。また、学校での成績不振やリスク行動と関連しており、それが後の社会経済的不利な結果につながる可能性がある。しかし、薬物使用はしばしば思春期から始まり、早期の開始はリスクを悪化させる。

この1年で使用された薬物 2024



> 世界的に見ると、薬物の使用は15歳から34歳の間に最も集中している。思春期や若者は、向精神薬の使用を含む高リスク行動に関与する傾向が強い。また、薬物関連の暴力や犯罪に関与する可能性も高まる。しかし一般的には、犯罪行為や薬物使用から年齢を重ねると脱却することが多い。

> すべての地域の若者の間で様々な薬物混合物の使用が報告されているが、コカインのような、これまで長く乱用が行われてきた薬物の使用も多くのヨーロッパ諸国やラテンアメリカの一部国で若者の間で増加している。これと同じくして、ヨーロッパ、カナダ、南米諸国では医薬品の誤用がこれまで以上に増加している。ヨーロッパの最近の学校調査では、女子生徒が吸入剤の使用や鎮静剤、トランキライザーなどの医薬品を誤用することが増えていることが示されている。

> 医療目的以外のケタミンの使用も若者の間で増加しており、特にナイトライフやレジャーの場面で、また「ケムセックス Chemsex」の文脈で男性同士の性交を行う男性の間でも増加している。この薬物はダークウェブやソーシャルメディアアプリを通じてより広く入手可能となっており、コカインのような薬物よりもはるかに安価である。これらの要素が若いユーザーを引きつけている。

> いくつかの調査結果では、ソーシャルメディアが薬物にアクセスするためによく使われる手段であることが示唆されている。2024年のオンライン薬物調査では、約19%のヨーロッパ人がソーシャルメディアで薬物を購入したと報告しており、これはダークウェブ(4%)よりもはるかに高い数である。2024年のニュージーランドのオンライン調査でも同様の結果が示され、薬物購入においてソーシャルメディアの重要性が高まっていることが示唆された。

> 一部の高収入国（先進国）では、青少年のアルコール（飲酒）、たばこ（喫煙）、大麻の使用が減少している兆候が見られる。これは、おそらく新しく出現してきた薬物の多様化やベイピングデバイス（加熱蒸気吸引デバイス）の人気の高まり、そしてソーシャルメディアやゲーム、夜間の対面での接触の減少などが要因と考えられる。

これらの国々のいくつかでは、若者たちが大麻を有害だと認識する傾向が強まっており、これは長期的な傾向の大きな逆転である。

知見

世界の薬物使用の現状

医療目的および非医療用途での医薬品 オピオイドへのアクセス

多くの国では、鎮痛薬や緩和ケアのための医薬品オピオイドへのアクセスは非常に低いままである。医薬品の非医療使用は、世界の医薬品市場の重要な構成要素である。

- > 痛み管理や緩和ケアにおける医薬品オピオイドへのアクセスと入手の格差は依然として大きい。過去 10 年間にいくつかの進展があったものの、ほとんどの低・中所得国では依然として利用可能性が非常に低いままである。一方で、一部の高所得国では、供給の多さが実際の需要を上回ることもある。ランセット緩和ケア委員会は、生命を脅かす健康状態や医療介入なしには緩和できず、緩和ケアによる緩和が必要となる終末に関連する痛み、苦しみ、重度の苦痛と定義する世界の重篤な健康関連の苦痛の 80%(5,870 万人)は、2021 年時点で低・中所得国においてのものであると報告している。しかしながら、それらの国々では医療用に利用可能な医薬品オピオイドわずか世界全体の 14%に過ぎなかった。
- > コストや調達の問題に加え、多くの国で文化的・政治的な障害が根強く存在する。医療従事者は十分な訓練を受けていないことが多く、依存症やオピオイドに対する文化的な偏見、痛み管理の必要性への懸念がある。一方、北米のオピオイド危機は、がん治療、手術、緩和ケアへの処方を超えた過剰処方と関連している。北米のこの傾向は、他国の医薬品オピオイドの誤用懸念を引き起こしている。
- > また、たとえ医薬品オピオイドが利用可能であっても、国際貿易規制措置、規制や輸入要件、痛み管理や緩和ケアに関する政策の欠如、流通システムの弱さ、モルヒネのようなより安価な製剤が欠如していることなどによって供給が妨げられることがある。
- > 医薬品を入手した後、保健当局は医療ニーズに対応できる規制薬物の確保と、違法市場への流通を防ぐという課題に取り組む必要がある。

主にオピオイド、ベンゾジアゼピン、その他の鎮静剤やトランクライザーなどの医薬品の非医療目的の使用は、現在、世界中の薬物市場における深刻な問題となっている。これらの非医療目的使用は他の薬物の使用よりも偏見が少ないことが多く、これが悪用されている。一部は医療サプライチェーンから流用されるが、ほとんどは違法に製造され、医療目的よりも高い用量で製造されたり、偽造医薬品として販売されている。

非医療用大麻の合法化

一部の国では、政策方針の変化を反映して成人による非医療用途の大麻の合法化が広がっている。

- > アメリカ大陸やヨーロッパの一部の国々は、非医療用大麻の使用・所持の非犯罪化や寛容を超え、たとえ部分的であってもサプライチェーンを合法化する規制を選択しつつある。例えば、医療以外の目的での大麻の栽培と使用を管轄区域で許可して規制することがますます多くの国で行われている。カナダ、ウルグアイ、そしてアメリカ合衆国の 28 の管轄区域は、成人向けの非医療用途での大麻の栽培、生産、販売を認める法的規定を制定している。チェコ、ドイツ、ルクセンブルク、マルタ、南アフリカ、そしてオーストラリアの 1 つの管轄区域も近年これに追随し、成人が医療以外の目的で薬物にアクセスできる程度を変えている。ただし、これらの国々は、非医療用大麻の商業サプライチェーンはまだ構築されていない。
- > 北米では、非医療用途での大麻の合法化は、医療用大麻の商業的普及がけん引するかたちで徐々に広がってきた。このプロセスは他の地域にも影響を与えている。しかし近年、非医療目的の大麻使用が有害と認識されるようになっており、北米における態度の変化が公衆衛生の結果にも影響を及ぼす可能性が高い。

世界における薬物使用の影響

薬物使用による健康に対する負荷と社会的影響は依然として高い状態が続いている。

薬物使用の世界的な状況は、公衆衛生、安全、社会システムにとって、引き続き、複雑かつ緊急の深刻な課題を提示している。薬物使用者の数の増加と、治療へのアクセスにおける格差が解消されないまま続いていることが、世界的に薬物による障害をさらに深刻化させている。薬物関連の害は薬物依存にとどまらず、重大な死亡率、HIV や C 型肝炎などの感染症の拡大、社会的格差の拡大を引き起こしている。同時に、強力な合成オピオイドの登場など、薬物市場の変化がリスクパターンを再構築している。

世界における薬物に関連する疾病負荷

薬物使用者の数が増え続ける中、健康負荷も増大している。一方、世界の多くの地域で薬物治療の提供が依然として不足している。

- > 薬物使用者の多くは必ずしもハイリスクの薬物使用をしたり、薬物依存に陥ったりするわけではないが、中にはこれらの危険な状況に陥る者がいる。2024 年には、世界で約 6,300 万人が薬物使用障害に苦しんでおり、そのなかでオピオイドは最も頻繁に使用されている薬物である。薬物使用や薬物使用障害による健康負荷は依然として高い状態が続いている。2023 年、世界で薬物使用による死亡者数が約 50 万人に達した。これは 10 年以上前の 29% の増加である。
- > 2024 年、推定 1,430 万人が静脈注射による薬物使用を行った。静脈注射による薬物使用者の、ほぼ 8 人に 1 人(170 万人)が HIV 感染者である。南部アフリカ、南西アジア、東ヨーロッパは、静脈注射による薬物使用者の HIV 感染率が最も高い地域である。
- > 静脈注射による薬物使用は、世界的な C 型肝炎流行の主要な要因であり続けている。2024 年、世界で、静脈注射による薬物使用者のほぼ半数(700 万人)が C 型肝炎に罹患していた。世界において、C 型肝炎は、薬物使用に起因する肝硬変や慢性肝疾患などの疾患負担の大部分を占め続けている。
- > 静脈注射による薬物使用者は男性に多い。一方、女性は人数が男性より少なくても、健康や社会的影響の負担が大きい。例えば、静脈注射による薬物使用者の中で、女性は男性よりも HIV に感染している可能性が 20% 高い。

- > 必要性があるにもかかわらず、世界中の薬物使用障害者の多くは、治療サービスへのアクセスがほとんど、あるいは非常に限られている。2024 年、薬物使用障害者の 12 人に 1 人しか何らかの薬物治療を受けておらず、特にアフリカやアジアでは治療の選択肢が限られている。全体として、女性の薬物使用障害は治療を受ける可能性がとて低。女性の薬物使用障害者のうち、薬物治療を受けているのはわずか 23 人に 1 人である。これに対して、男性は 9 人に 1 人である。

合成オピオイドによる健康被害

フェンタニルは、特に北米で、合成オピオイドの 非医療用途による被害の最大の割合を占めているが、ニタゼンやオルフィンなどの薬物市場への登場により、より多様な国々で多くの急性緊急事態や致命的な症例が発生している。

- > 近年の薬物使用に関する最大の歴史的事象の一つがカナダとアメリカで起こった。両国は 20 世紀初頭の 20 年間にオピオイド危機に見舞われ、約 100 万人の死者を出した。危機はオキシコドンなどの処方された医薬品オピオイドから始まったが、違法製造されたフェンタニルが流入し、オキシコドンなどの医薬品の違法市場はすぐに駆逐された。しかし、危機のピークは過ぎ去ったようで、2024 年にはこれらの国々ではフェンタニルに関連したオピオイドによる死亡が減少した。それにもかかわらず、フェンタニルは世界で合成オピオイド関連の過剰摂取死亡の最大の割合を占め続けており、その大多数はカナダとアメリカ合衆国で発生している。

知見

薬物使用の影響

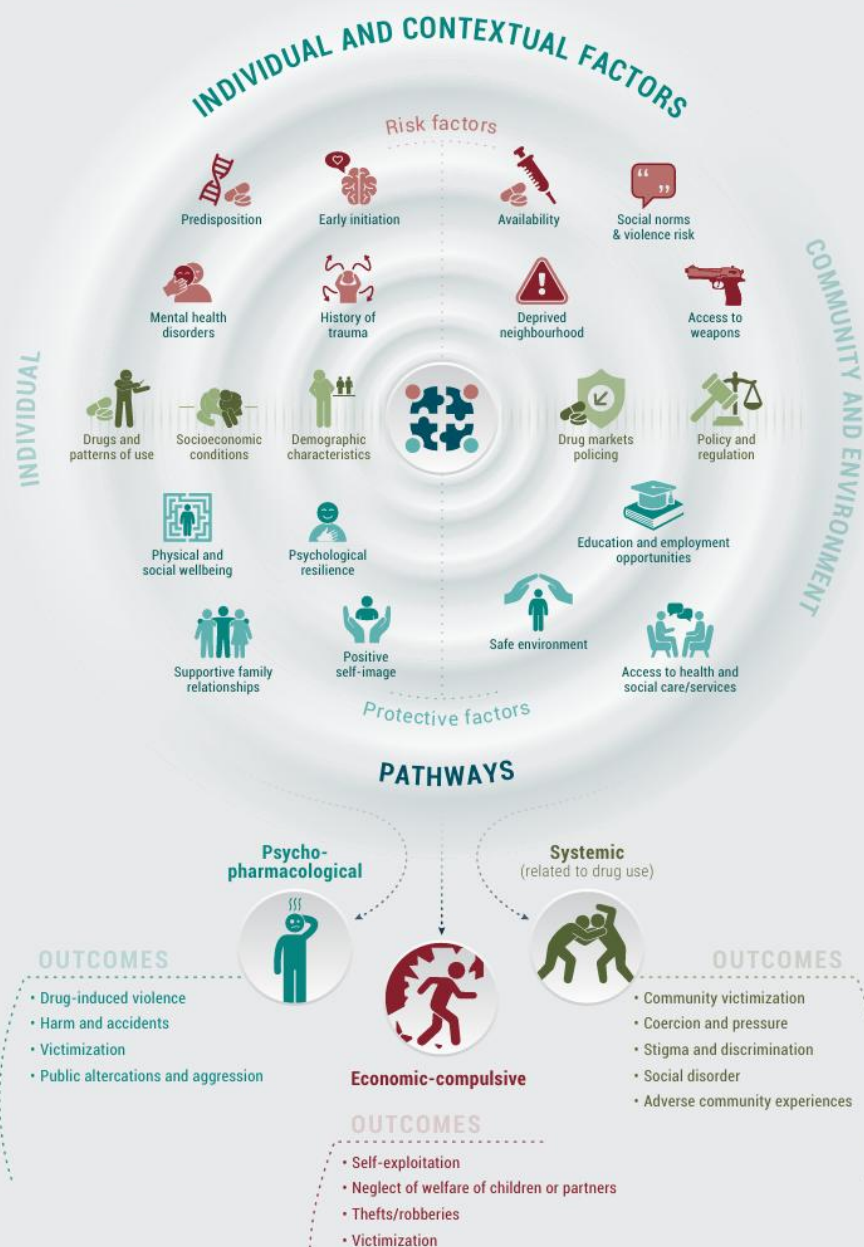
- > 北米以外では、エストニアとスウェーデンでフェンタニルの違法市場の発生した兆しがある。両国のデータは、ヨーロッパで最も人口あたりのオピオイド過剰摂取死亡率が高い国々であることを示している。しかし、両国とも 2018 年以降は、フェンタニル過剰摂取の件数が大幅に減少している。この減少は、フェンタニルの供給と入手の制限、救命介入へのアクセス拡大、消費パターンの変化によるものと考えられる。
- > しかし、ニタゼンだけでなくプロルフィンやその他のオルフィン類も含め、フェンタニルよりも強力な新しい合成オピオイドが登場している。ニタゼンは 2019 年以降 37 か国で確認されており、フェンタニルよりもはるかに地理的に広範囲に分布している。2024 年において、新たに検出された合成オピオイドの報告では、フェンタニル、ニタゼン、オルフィンが多くを占めた。2022 年以降、いくつかの地域でニタゼン関連の死亡例が数百件報告されているが、新しい薬物の定期的な検知が不足しているため、数は過小計上されている可能性がある。

薬物使用と安全・セキュリティ

薬物使用と安全性・セキュリティの関係は複雑であり、個々の要因だけでなく、より広範な社会経済的、文化的、政策的環境によって形作られている。

- > 社会は依然として薬物使用と安全性・セキュリティの複雑な関係に向き合い続けている。薬物使用は、金品目当ての犯罪、家族や社会集団内の暴力、薬物使用者自身による加害、および薬物使用者への他者からの加害と関連している可能性がある。
- > しかし、これらの結果は薬物使用の文脈や関係者の個人的な経歴など、より広範な要因にも影響される。貧困、ホームレス、精神的健康の悪化、治療の選択肢の欠如などのすべてが、安全性や安心の欠如と関連している。地域住民、法執行機関、サービス提供者、そして実際に経験した人々へのインタビューは、この関係の複雑さを示している。薬物使用と安全・セキュリティの問題に直接関連があるのではなく、貧困や社会的孤立がこうした結果を形作る重要な要因として浮かび上がっている。社会的孤立は主に薬物使用に対する偏見の結果と見なされていた。しかし、この偏見は、薬物の使用を経済的に支えるために薬物を使用する者による窃盗などの犯罪リスクの増加に起因している可能性がある。
- > 最終的には、研究が示すように、エビデンスに基づく薬物治療を含む十分な健康・社会福祉介入が存在し、社会的決定要因やその他の文脈的要因に対応する介入がある場合、最悪の安全・安全結果は回避される。

薬物使用の安全とセキュリティへの影響



上部：

INDIVIDUAL AND CONTEXTUAL FACTORS 個人および関連要因

外周の分類：

- INDIVIDUAL（左側）：個人レベルの要因
- COMMUNITY AND ENVIRONMENT（右側）：地域社会および環境レベルの要因

リスク要因（Risk factors / 図の上半円）

- Predisposition: 素因（遺伝的・体質的傾向）
- Early initiation: 早期の使用開始
- Availability: 薬物の入手可能性
- Social norms & violence risk: 社会的規範および暴力のリスク
- Mental health disorders: 精神健康障害
- History of trauma: トラウマの既往・体験歴
- Deprived neighbourhood: 恵まれない・貧困地域の環境
- Access to weapons: 凶器・武器へのアクセス

保護要因（Protective factors / 図の下半円）

- Physical and social wellbeing: 身体的・社会的ウェルビーイング（健康・福祉）
- Psychological resilience: 心理的レジリエンス（回復力・適応力）
- Positive self-image: 肯定的な自己イメージ（自尊感情）
- Supportive family relationships: 支援的な家族関係
- Safe environment: 安全な環境
- Education and employment opportunities: 教育および雇用機会
- Access to health and social care/services: 保健・医療および社会福祉サービスへのアクセス

中央・ニュートラルな要因（中心付近の項目）

- Drugs and patterns of use: 薬物の種類および使用パターン
- Socioeconomic conditions: 社会経済的状況
- Demographic characteristics: 人口統計学的特性
- Drug markets policing: 薬物市場における取締り・警察活動
- Policy and regulation: 政策および規制

経路（PATHWAYS）

リスク・保護要因から帰結へと至る 3 つの経路（モデル）：

1. Psycho-pharmacological: 精神薬理学的経路（薬物の直接作用による行動変化）
2. Economic-compulsive: 経済的・強制（逼迫）的経路（薬物購入資金獲得のための行動）
3. Systemic (related to drug use): 構造的・システムの経路（違法薬物市場や取締りに関連する環境的要因）

下部：帰結・影響（OUTCOMES）

左（精神薬理学的経路による帰結）

- Drug-induced violence: 薬物に誘発された暴力
- Harm and accidents: 害および事故
- Victimization: 被害化（犯罪等の被害に遭うこと）
- Public altercations and aggression: 公共の場での口論・対立および攻撃行動

中央（経済的・強迫的経路による帰結）

- Self-exploitation: 性的・労働的搾取の自己受容（自己搾取）
- Neglect of welfare of children or partners: 子供やパートナーの福祉・養育の放棄（ネグレクト）
- Thefts/robberies: 窃盗・強盗
- Victimization: 被害化

右（構造的・システムの経路による帰結）

- Community victimization: 地域社会における被害化
- Coercion and pressure: 強制・威圧および圧迫
- Stigma and discrimination: スティグマ（偏見）と差別
- Social disorder: 社会的秩序の混乱・不穏
- Adverse community experiences: 地域社会における有害な体験

世界の薬物問題

共通の課題とそれぞれの地域の事情



世界の薬物問題

それぞれの地域の抱える問題

大麻の不正取引は世界の各地域に影響を及ぼしている。他方、それぞれの地域は、それに加えて、その他の薬物問題の脅威にも曝されている。





薬物ごとの現状

大麻		
需要	供給	主要課題
> 大麻は、依然として世界で最も頻繁に使用（乱用）されている薬物である。 > 2024 年には推定 2 億 5,600 万人が大麻を使用した。これは世界の 15-64 歳人口の 4.8%、男性の 7.2%、女性の 2.3%に相当する。 > 大麻を使用者（乱用者）数は過去 10 年間で 40%増加した。 > 大麻の使用は依然として北米で最も高く、2024 年に 15 歳から 64 歳までの人口の 20.5%が大麻を使用（乱用）していた。 > 大麻使用障害はアフリカで薬物治療を受ける者の 33%、オセアニアでは 32%を占める。	> 大麻は、世界のほぼすべての国で栽培されており、主に屋外で栽されている。 > 大麻樹脂の押収件数は、2021 年まで続いた長期的な増加傾向の後、その後の数年間で大幅に減少した。対照的に、大麻ハーブの押収は 2023 年まで増加し、2024 年も高い水準を維持した。 > 大麻ハーブの密輸は主に局所的であるが、サブリージョン間の密輸が重要性を増している。大麻の商業的供給が行われている一部の国では、違法市場向けの大麻ハーブの密輸が増えている。 > 大麻樹脂の取引は主に地域間（北アフリカから西ヨーロッパおよび中央ヨーロッパ、さらに南西アジアからアジアの他のサブリージョンやヨーロッパへ）にとどまっている。 > 北米および西・中欧では、違法市場に出回る大麻製品は過去 30 年間で THC の含有量が増加し、より強力になっていることが示唆されている。また、ラテンアメリカでは、より強力な株も出現している。	> 大麻は、その高い使用率もあって、世界の薬物関連の健康障害の最も多くの部分を占めている。世界の国々のうち 42%の国が大麻を薬物使用障害の主要原因とし、41%の国が大麻を薬物治療を受ける者にとっての懸念される主な薬物としてあげている。 > 多くの国が大麻の医療利用に関する規定を設けているが、規制の方針は国ごとに大きく異なる。カンナビノイドがいくつかの疾患の治療に有効であるという知見はあるが、他の多くの疾患については証拠が限られている。 > 2025 年 12 月時点で、カナダ、ウルグアイおよびアメリカ合衆国の 28 の州などでは、成人による非医療目的の大麻の栽培、生産、販売および所持を認める法的規定を制定している。最近、特にヨーロッパなど他の国々でも、医療目的以外の用途での大麻の規制に関して異なる立法アプローチが登場している。チェコ、ドイツ、ルクセンブルク、マルタでは成人の非医療目的での大麻アクセスについての法的規定を制定している。しかし、これらの国々では、医療以外の用途の大麻の商業的サプライチェーンはまだ確立されていない。

オピオイド

需要	供給	主要課題
> 2024 年、オピオイド使用者（乱用者）は、推定 6,300 万人、これは世界 15-64 歳人口の 1.2%に相当する。その半数は南アジアと南西アジアである。 > 2024 年、オピオイド使用者（乱用者）のうち、推定 3,000 万人が ヘロインを中心としたオピオイドを使用した。これは 15-64 歳の世界人口の 0.57%、その年齢層の女性 0.16%、男性 0.96%に相当する。 > 世界のオピオイド使用者レベルは 2018 年から 2024 年の間にわずかに増加した。しかし、オピオイド使用経験率は比較的安定している。 > 2024 年、薬物治療者の 1/3 が、主な使用薬としてオピオイドを挙げている（世界 140 か国）。 > オピオイドは依然として最も致死率の高い薬物グループであり、薬物に直接関連する死亡の 4 分の 3 を占める（主に過剰摂取）。	> 2024 年、世界のけし栽培および生産面積は、依然として低い状態が続いている。これは、主に 2022 年 4 月のタリバンによるあへん禁止令によりアフガニスタンで 95%減少したことによるものである。 > ミャンマーは、世界最大のあへん系麻薬生産国として浮上し、2025 年時点で世界全体の半数を占めている。 > アフガニスタンからあへん系麻薬が供給されていた一部の国ではあへん系麻薬が不足している兆候がある。しかし、バルカンルートは 2024 年も依然としてあへん系麻薬の主要な密輸ルートであり続けているので、アフガンとその周辺にはあへん系麻薬の在庫が引き続き存在していると推定される。 > 医薬品オピオイドの押収量は、長期的増加傾向があり、2024 年も高い水準を維持している > メサドンの違法な製造と密売は、特に東ヨーロッパの違法薬物市場に影響を与えている。	> オピオイドに関しては非医療的使用に関わる 2 つの流行がある。ひとつは北米でのフェンタニル使用であり、他のひとつは北アフリカ、西アフリカ、中近東、南西アジアでのトラマドールおよびコデインの非医療使用である。これらの流行は依然として重大な健康リスクをもたらしている。 > 北米のオピオイド過剰摂取による死亡は 2022 年から 2023 年にピークを迎えた後、は 2024 年に初めて減少し、カナダでは 17%、アメリカ合衆国では 3 分の 1 以上減少した。 > 世界のオピオイド市場は再形成されている。具体的にはアフガニスタンにおけるあへん・けしの違法栽培と違法生産が急激な減少した一方、フェンタニル、ニタゼン、オルフィンなどの強力な合成オピオイドの入手・拡散が起こった。 > 疼痛管理と緩和ケアのための医薬品オピオイドへのアクセスは、低中所得国と高所得国の間で大きく異なる状況が続いている。ほとんどの低・中所得国で非常に低く、一部の高所得国では実際の需要を上回っている。

薬物ごとの現状

コカイン		
需要	供給	主要課題
> 2024 年、世界で推定 2,500 万人がコカインを使用（乱用）した。これは、15-64 歳の世界の人口の 0.47% に相当する。性別にみると女性で 0.24%、男性で 0.7% と推定される。 > コカイン使用者は依然として複数の確立された市場に集中しており、アメリカ大陸、西ヨーロッパおよび中央ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドが過去 1 年間の使用者の約 70% を占めている。 > アフリカとアジアでのコカイン需要は過去 20 年間で増加しているが、地域ごとの需要は依然として不均一であり、データの欠如により、これら 2 つの地域の使用レベルを明確に理解することはできない。	> コカイン製造レベルは 2024 年に過去最高の 4,100 トン（純粋コカイン）に達した。 > コカイン押収件数は、過去 10 年間で倍以上に増加した。それにもかかわらず、市場に出回るコカイン推定量も増加した。 > コカインは、主に地域間の海上ルートで密輸されており、近年押収されたコカインの量の 80% 以上が海上密輸に関連したものである。	> COVID-19 のパンデミックによる中断の後、コカインの世界市場は拡大が続いている。過去 10 年間で世界中で使用量が増加し、供給も増加しており、2024 年にはコカイン密造は過去最高を記録した。 > 世界的には、コカイン市場は供給と需要の両方で引き続き強い増加を示している。 > 近年のコカイン拡大の最も明確な兆候は西ヨーロッパおよび中央ヨーロッパで観察されている。コカイン使用量は、2015 年以降、特に西ヨーロッパと中央ヨーロッパで増加していることが廃水分析から明らかにされている。また、特に「クラック」コカインの危険なコカイン使用は、西ヨーロッパや中欧で増加しており、治療需要にも反映している。 > 西ヨーロッパおよび中央ヨーロッパへのコカイン流入は依然として豊富で、ルート、侵入地点、密輸手段の面で進化がみられる。 > コカインは、アジアやアフリカの新興市場での密輸や使用が増えている。西アフリカ、中央アフリカ、北アフリカはコカインのヨーロッパへの重要な中継地となっている。

アンフェタミン型覚醒剤（ATS）

需要	供給	主要課題
> 2024 年には世界で推定 3,200 万人がアンフェタミンを使用（乱用）した。これは、15-64 歳の世界 人口 0.60%に相当する。性別では女性 0.34%、男性 0.85%。 > 特にアンフェタミン使用が多い国では大きなデータギャップがあるので、世界的な傾向は計算できない。2024 年には、20 か国が自国でのアンフェタミン使用増加、5 か国が減少、20 か国が安定した傾向と報告している。 > アンフェタミンの使用者（乱用者）数は東アジアと東南アジアで最も高く、次いで使用者（乱用者）が多いのは北米である。北米では使用頻度が高い。 > 2024 年には、世界で推定 2,100 万人「エクスタシーMDMA」タイプの薬物使用（乱用）した。これは、15-64 歳の世界人口 0.40%を占める。性別では女性 0.26%、男性 0.54%。	> 2024 年に過去最高のアンフェタミン系覚醒剤(ATS)が押収された。世界レベルでは引き続きメタンフェタミンが主流である。 > 2024 年の時点で、世界のメタンフェタミン押収量は年間約 13%の増加を示した。 > ATS、特にメタンフェタミンの密輸は地理的に広がり、これまで見られなかったアフリカ、南西アジア、南アジア、ヨーロッパの一部などの市場での顕著な拡大が観察されている。 > シリアの最近の政治変化により、中近東における「キャプタゴン」の生産は混乱しているが、「キャプタゴン」の入手可能性は依然として存在している。これは周辺地域での大規模な押収や小規模の生産からも推定される。	> メタンフェタミンとオピオイドとの使用には強い関連がある。メタンフェタミン使用経験の増加は、オピオイド使用者のメタンフェタミン使用量の増加も含まれる。 > メタンフェタミンの製造と使用は、従来の市場である東アジア・東南アジアおよび北米から特に南西アジア、南アジア、中近東、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカへと拡大し続けている。 > 南西アジアにおけるメタンフェタミンの違法製造が他国への供給元となることが続いており、隣接地域でのメタンフェタミン市場も拡大している。 > 中近東は、「キャプタゴン」とメタンフェタミンに関連する複数の重なり合うリスクに直面しており、生産拠点の再編や拡散、「キャプタゴン」からメタンフェタミンへの使用パターンの変化など多岐にわたる。

薬物ごとの現状

新精神活性物質（NPS）

需要	供給	主要課題
＞トラマドールやケタミンなど、国際的な管理下でない一部の医薬品の誤用（合法・不正製造の両方）を除けば、世界の違法薬物市場で最も広く使われている薬物リストにはNPSはない。 ＞NPSの使用者は、不純物と知らず、または他の薬物の代りにこれらの薬物を使用し、時には致命的な結果に至る。しかし、全体としてNPSによる害（死亡と入院）は規制薬物に比べるとかなり低い。 ＞NPSの使用頻度については、NPSの内容や表示に関する不確実性、これらの薬物が市場に突然現れては突然消失する傾向があるため、依然としてモニタリングが課題である。 ＞26か国（主に高所得諸国）からの限られたデータによると、15歳から64歳の人口の0.3%が過去1年間にNPSを利用した。 ＞最も一般的に使われるNPSは合成カンナビノイド受容体作動薬（「合成カンナビノイド」）とケタミン、次いで合成カチノンである。	＞2020年と2024年の間、合成NPSの押収を報告した国は合計79か国、植物由来のNPSの押収を報告した国（44か国）の2倍である。 ＞合成NPSの押収は2012年まで大幅に増加し、2015年までは高い水準を維持したが、その後2018年まで77%以上大幅に減少した。その後は2024年まで徐々に元に戻り、2015年の水準になったが、2012年のピークには及んでいない。 ＞2020年から2024年の期間NPS押収の多くはケタミン（世界全体の合成NPS総量の68%）、次いで合成カンナビノイド（28%）、合成カチノン（4%）であった。 ＞西アフリカは2020年から2024年の間に押収された合成カンナビノイドの総量のかなりの部分を占めた。 ＞2024年は、加盟国によって755の異なるNPSが世界の薬物市場に存在すると報告され、これは過去最高数であり、そのうち118種が初めて特定された薬物であった。 ＞市場に出回ったNPSの多くは合成カンナビノイドで、次いで合成カチノン、フェネチルアミン、合成オピオイド、幻覚剤であった ＞2022年から2025年の間に薬物市場のフェンタニル類の数は急激に減少したが、薬物市場の合成オピオイドNPSの他の2つのグループ；ニタゼン（ベンズイミダゾール系）とオルフィン（プロフィン等）が増加した。	＞薬物の規制管理システムは、高所得国ではNPSの蔓延を封じ込めに成功しているが、NPSの不正取引の地理的範囲は拡大し続けている。 ＞2026年3月12日時点で、国際管理システムは2014年以降92のNPSを国際管理下に置いた。 ＞東ヨーロッパや中央アジアなどの一部のサブリージョンでは、NPS（特に合成カチノン）が大きな問題となっている。 ＞ケタミンは、東アジアおよび東南アジアで最もよく使われている薬物の一つであり、西ヨーロッパや中央ヨーロッパ、オーストラリアなど他のサブリージョンにも広がり始めている。この薬物は単独でも、薬物混合物の一部としても使用されており、その成分は使用者には、ほとんど不明である。 ＞近年の憂慮すべき新しい傾向は、強力な合成オピオイドのグループであるニタゼンとオルフィンの出現である。これら2つの強力な合成オピオイドのグループの乱用は、特にヨーロッパや北米で報告されており、2024年末までに数百人の死亡を招いたほか、オセアニアや西アフリカでも「クシュ」と呼ばれる燻製混合物の中にニタゼンが検出されている。

地域ごとの現状

37

アフリカ

需要	供給	主要課題
> 2024 年、アフリカでは、15 歳から 64 歳の人口の 7.5%が過去 1 年間に大麻を使用した。大麻の使用は西アフリカ、中央アフリカで特に高く、2024 年の 15-64 歳の大麻使用の経験率は約 10% である。 > オピオイド使用推定経験率もこの地域で高く、2024 年、15 歳から 64 歳の経験率は 1.4%。トラマドールの非医療的使用は、特に北、西、中央アフリカで依然として脅威となっている。 > コカインの使用（乱用）は、大陸全体、特に西、中央、南部アフリカで増加しているようである（関連データは乏しい）。近年、アフリカではコカイン使用障害により、少なくとも毎年 5,760 人が治療を受けた。 > 植物ベースの NPS であるカートの使用は東アフリカで広がっているが、南部アフリカでは合成 NPS の使用が最も一般的に報告されている（両方の事例に関するデータは乏しい）。 > アフリカでは静脈注射による薬物使用者 150 万人のうち、20 万 4,000（15.3%）が HIV に感染している(2024)。この地域内では、西アフリカと中央アフリカが静脈注射による薬物使用経験率が最も高く（0.2%）、静脈注射による薬物使用者の HIV の罹患率は南部アフリカが最も高い（41.4%）。東アフリカ（16.6%）および北アフリカの薬物注射者の間での HIV 感染率(12.6%)は、世界平均の 11.5%を上回っている。	> アフリカは、2024 年に世界で押収された大麻ハーブと樹脂の総量の 61%を占め、南北アメリカ、アジア、ヨーロッパを上回った。 > 北アフリカは、西ヨーロッパへ大麻樹脂の地域間密輸とプレガバリン不正取引の主要なハブであり続けている。北アフリカのプレガバリンは主に南アジアからのものである。 > アフリカは、2020 年から 2024 年の間に世界中で押収された医薬品オピオイド総量の 60%を占める。これは主にコデインとトラマドールの非医療的使用によるものである。アフリカは 2020 年から 2024 年の間に世界のコデイン押収の 55%、トラマドール押収の 97%を占めている。 > アフリカでは、ほとんどのコカインは海岸部近くで押収されている。この地域、特に西アフリカは、南アメリカからヨーロッパに向かうコカインの積み替えエリアとなっている。 > 世界のヘロイン押収の約 5 分の 1 はアフリカで行われ（2023 年と 2024 年）、2020 年の 2%から増加している。これは近年、アフガニスタンからの南部ルートを経由したヘロイン密輸の重要性が高まっていることを反映している。南西アジアからのヘロインはアフリカのあらゆるサブリージョンを経由し、東アフリカを入口とし、アフリカの他の市場や西・中央ヨーロッパの消費者市場へと輸送されている。 > アフリカにおける NPS の押収は、2020 年から 2024 年の期間はカート、その後合成カンナビノイドであった。2021 年から 2024 年にかけて、西アフリカおよび中央アフリカで合成カンナビノイドの押収が急激に増加した。これは主に「クシュ」に関連したものである。	> アフリカは薬物使用の男女差が大きく、大麻を使用（乱用）している女性は男性の 1/9 である。 > アフリカで薬物使用障害の治療を受けている者の大多数は 35 歳未満である。大麻とオピオイドが、アフリカで治療を求めるほとんどの薬物使用障害者の主要薬物である。 > アフリカは依然として薬物の主要な不正取引地域である。西アフリカではコカイン、東アフリカではヘロイン、そして主にこの地域で生産される大麻である。 > トラマドールの非医療的使用に関連するオピオイドの流行により、西アフリカ、中央アフリカ、北アフリカでトラマドール使用障害の治療需要が増加しており、重大な健康リスクをもたらし続けている。また、コデインの不正取引や非医療的使用、西及び中央アフリカにも影響を及ぼしている。 > 西アフリカ、中央アフリカ、北アフリカでは注射薬物使用者の高い経験率が依然として問題であり、注射薬物使用者における HIV および C 型肝炎感染率が異常に高いことが南部アフリカで特に懸念されている。 > 「ニャオペ」や近年では「カダフィ」や「クシュ」などの薬物混合物や混合物の既存および新たな使用による公衆衛生上の脅威が、一部のアフリカ諸国で増大している。限られた証拠から、ニタゼネス群の強力なオピオイドを含む有害物質が含まれていることが示されている。 > 西アフリカおよび中央アフリカは、人口 100 万人あたり平均一日標準投与量が 25 とされている痛み管理および緩和ケアのための国際的に管理された医薬品の入手可能性が最も低いサブリージョンとして残されている。

地域ごとの現状

アメリカ

需要

- > 北米は、世界最大のコカイン市場である。2024 年、15-64 歳人口 1.9%(650 万人)がコカインを 使用したと推定されている。
- > 南アメリカ、中部アメリカとカリブ海地域は、世界でコカインによる薬物治療を受けている者の割合が最も高い亜地域であり、市場で入手できるコカイン製品の種類も多様である。
- > 北米のオピオイド使用は依然として高く、2024 年には 15 歳から 64 歳の人口 2.6%(860 万人)が過去 1 年間の使用を報告した。
- > 北米では過去 10 年間でメタンフェタミン使用障害の治療を受ける人数が大幅に増加し、最近ではメキシコで顕著である。
- > アメリカ大陸では 460 万人が静脈注射により薬物を使用し、これは世界の静脈注射による薬物使用者の約 3 分の 1 にあたると。2024 年時点で、この地域では注射薬物を使用する者のうち 24 万 1,000 人が HIV 保有者であり、190 万人が C 型肝炎ウイルス保有者である。北米は一般人口の中で静脈注射による薬物使用者の割合が最も高い国の一つであり(一般人口の 1.0%)、2024 年では 350 万人に相当した。しかし、北米では静脈注射による薬物使用者の推定 HIV 罹患率(6.9%)は世界平均を下回っている。

供給

- > 北米では、2010 年以降、大麻の禁止の優先順位が低くなっているため、大麻市場が急速に成長している一方、大麻の押収は大幅に減少している。
- > 南米でのコカインの製造は、202 年に過去最高の 4,100 トン(純粋なコカイン)に達した。
- > コカインの押収は南米の生産拠点近くにシフトしている。南米で押収されたコカイン総量は記録的な高水準に達し、現在、北米の 7 倍である。同時に、西および中央ヨーロッパでのコカイン押収件数は、6 年連続で北米を上回った。
- > 北米では、メタンフェタミン市場が高い水準で安定している。北米で製造されているメタンフェタミンのほとんどは、その亜地域内で消費されている。
- > 北米は、2020 年から 2024 年の間で世界で押収されたすべてのフェンタニルおよび類似体の 99%以上を占める。押収量は増加を続け 2023 年に過去最高に 達したが、2024 年には 37%減少した。
- > 過去 10 年間で、ラテンアメリカで非常に強力な大麻の品種が出現した。

主要課題

- > 北米における違法に生産されたフェンタニルに関連するオピオイド乱用が蔓延し、過剰摂取による死亡者数は過去最高となった。2022 年から 2023 年のピーク以降、この傾向は 10 年ぶりに減少している。2024 年には、カナダではフェンタニルによるオピオイド過剰摂取による死亡数が推定 17%減少し、米国では少なくとも 3 分の 1 減少した。
- > 大麻使用におけるジェンダーギャップは、大麻使用レベルが特に高い北米で縮小しつつある。
- > アメリカ大陸では、南米におけるコカイン製造・密売が増加している。その影響で暴力犯罪が多発し、コカイン不正取引は記録的レベルの高さになっている。

アジア

需要	供給	主要課題
> 世界でオピオイド使用者（乱用者）の推定数の半分以上がアジアにおり（地域の成人人口の 1.2%）、2024 年のオピオイド使用経験率は中近東/南西アジアにおいて世界で最も高い（3.5%）。 > メタンフェタミンは東アジアと東南アジアで懸念される主な薬物である。他方、あへん系麻薬、特にあへんとヘロインは、南西アジアと南アジアで乱用が広がっている。 > 近年、メタンフェタミンの使用がアフガニスタンや南西アジア諸国で増加している。 > 「キャプタゴン」は中近東で主流の覚醒剤であるが、この亜地域ではメタンフェタミンの使用が増加している。 > プレガバリンの非医療目的の使用が中近東で報告されている。 > 大麻使用に関する性差はアジアで最も大きく、過去 1 年間の大麻使用者 100 人に 92 人が男性であった。 > アジアは世界で最も静脈注射による薬物乱用者数が多く、世界の 1/3 を占め、2024 年には 530 万人であった。その内 62 万 9,000 人が HIV に感染しており、これは世界の 40% を占める。また、静脈注射による薬物乱用者の HIV 罹患率は南西アジアが最も高い（28.5%）。東アジアと東南アジアは C 型肝炎罹患率も高い（64.8%）。	> 2022 年 4 月にアフガニスタンであへんの生産が禁止されたことで、この地域のけし栽培とあへん生産は劇的に減少し、2023 年以降はミャンマーが世界最大のあへん生産国となっている。しかし、それにもかかわらず、少なくとも 2024 年までは、ほとんどの不正取引はアフガニスタンで生産されたオピオイドに関連していた。 > ヘロインとモルヒネの押収量は減少しており、2024 年、アジア全体で 21% 減少した。過去数年間、アフガニスタンのあへん関連の在庫は減少しているが、伝統的なアフガニスタンを起源とするヘロイン供給は以前として続いている。 > キャプタゴンは、主にシリアとレバノンで製造されており、中近東では問題の薬物である。シリアの政変がキャプタゴン市場に与える長期的影響は、まだ見られていないが、2025 年、シリア、レバノンや近隣諸国で大規模な押収があったことは、既存の在庫の放出が原因と考えられる不正取引が現在も進行中と推定される。 > 近年、アフガニスタンでは、メタンフェタミン製造が増加している兆候がある。 > 東アジアと東南アジアでは、メタンフェタミンの大量製造が行われており、2024 年には押収量が過去最高になった。ミャンマーはこの市場の主要な供給国であり続けている。 > 近年のコカイン押収は、アジアへのコカイン密輸の地理的拡大を示している。人口が多く、薬物消費が増加するいくつかの国々では、2023 年または 2024 年に過去最高または歴史的に高い押収数を記録した。	> アフガニスタンのヘロイン生産の大幅な減少による消費者市場でのヘロイン不足がいくつかの主要な薬物市場で注目され始めている。ヘロインが不足の結果、ヘロインが一部の合成オピオイドなどのより有害な物質（フェンタニル、ニタゼン、オルフィン類など）に置き換えられるリスクが高まっている。ニタゼン、オルフィン類はフェンタニルより強力で、これらの薬物が出回る場合、過剰摂取による死亡者増加など重大な結果をもたらす可能性がある。 > メタンフェタミンの密造と不正取引は、南西アジアと中近東で拡大している。メタンフェタミンの市場は、中近東で定着しつつある。 > 中央アジアとトランスコーカサス地域の違法薬物市場では、国際的に規制されている薬物（メタンフェタミン、メフェドロンなど）や規制が及んでない薬物（合成カチノンなど）などの多くの合成薬物が出回っていることが特徴である。 > ترامadol の非医療的使用と不正取引は、中近東、中央アジア、トランスコーカサス地方まで拡大している。 > 南西アジアは、オピオイドの使用経験率および静脈注射による薬物使用者の HIV 感染率が世界で最も高い地域の 1 つである。

地域ごとの現状

ヨーロッパ

需要	供給	主要課題
>西ヨーロッパと中央ヨーロッパは、特 2015 年以降、コカイン使用レベルが明 らかに増加しており、依然として世界 で 2 番目に大きなコカイン市場であ る。2024 年におけるコカイン使用者は 推定 550 万人、15 歳から 64 歳の人口 の 1.7%であった。 >薬物治療データから、西ヨーロッパお よび中欧で「クラック」コカインに関 連するコカイン使用障害の増加という 最近の懸念すべき傾向が示されてい る。 >アンフェタミン（ATS）は、コカインに 次いでヨーロッパで 2 番目に多く使用 されている覚醒剤である。ATS の使 用は、過去 10 年間でこの地域で増加 している。 >西及び中央ヨーロッパは依然として 「エクスター」の主要な消費者市場で ある。 >オピオイド（特にヘロイン）は、ヨー ロッパの薬物障害で治療を受けている 者の主な薬物であることに変わりはない が、大麻はそれに近づいており、 その使用は初めて薬物障害で治療を 受ける者の間でより一般的にみられる 薬物となっている。 >廃水分析や薬物障害治療のデータから この地域、特に西及び中央ヨーロッパ でケタミン使用量が増加していること が示された。 >東ヨーロッパは、薬物の静脈注射使用 者率が他のどの地域よりも高い（2024 年に 1.3%、130 万人）。また、薬物の 静脈注射使用者では HIV 陽性率 （25.7%）が高い。ヨーロッパでは薬物 の静脈注射使用者の C 型肝炎の罹患率 （53.0%）も他の地域より高い。	>西ヨーロッパおよび中央ヨーロッパで大量に 取引される大麻ハーブは依然としてこの亜地 域内から供給されているが、他地域からの大 麻ハーブの輸入も増えている。北アフリカか らこの亜地域への大麻樹脂の輸入も引き続き 多い。 >EU では、低 THC のハーブは、おそらく違法 市場で大麻として 販売されており、合成お よび半合成カンナビノイドによって「強化」 されているケースが多くなっており、その中 には強力なものもある。 >西ヨーロッパと中央ヨーロッパは、合成薬 物、特に「エクスター」とアンフェタミン の製造の 中心地であり続けている。また、 メタンフェタミンの製造が拡大 する兆候が ある。これは、特定の国の小規模な国内市場 向けの地理的に限定された小規模生産からよ り広範な国で労働工場へとシフトしており、 その中には大規模な国もある。 >かつてヨーロッパではアンフェタミンの押収数 がメタンフェタミンを明らかに上回っていた が、近年（2022 年、2023 年、2024 年）には逆 の傾向になった。これは主に南西アジア起源 のメタンフェタミンに関連してトルコでのメ タンフェタミン押収の急増に伴うものであ る。 >コカイン不正取引は増加傾向にあり、過去 10 年間、コカイン 押収が一貫して増加してい る。西ヨーロッパおよび中欧でのコカイン押 収は、2014 年から 2023 年の期間で 7 倍以上 に増加した。2024 年には、コカインの密輸パ ターンが北海沿岸の主要港湾を通る大規模な 貨物輸送から南西ヨーロッパへと移行し、小 規模な港の利用やコンテナ輸送以外の手段へ の依存度が高くなった。 >メサドンの違法生産は、合成麻薬の不 正取引が急速に拡大している東ヨーロッパに 影響を及ぼしている。	>2024 年と 2025 年には、コカイン 市場が西ヨーロッパと中央ヨーロ ッパ及び南東ヨーロッパで拡大し 続けていることが廃水分析や薬物 治療データなどから明らかに なった。 >近年、一部のコカイン市場が、東 ヨーロッパに達している。 >大麻使用に関連する健康被害は、 大麻使用障害の治療を受けている 者の数が長期的に増加しており、 特に西ヨーロッパと中央ヨーロ ッパで増加している。2024 年に初め て薬物治療サービスにアクセスし た人の 40%以上が、大麻使用障害 の治療を受けており、このグルー プでは大麻が健康障害の最も一般 的な原因薬物となっている。 >東ヨーロッパでは、ここ数年で薬物 市場が変化し、合成薬物、特に 合成カチノン、ATS 全般、違法に 製造されたメサドンが主流となっ ている。 >東ヨーロッパにおいては、静脈注射 による薬物使用者数とその HIV 感染率が高いことが懸念事項であ る。また、ヨーロッパ全体では 静脈注射による薬物使用者におけ る高い C 型肝炎ウイルス罹患率 が、重要な懸念事項である。

オセアニア

需要	供給	主要課題
> オーストラリアとニュージーランドの亜地域での過去 1 年間のコカインの使用率は依然として世界で最も高く、2024 年には 15 歳から 64 歳の人口の 4.2% がコカインを使用した。 > しかし、コカインの消費量(廃水分析に基づく)は世界の他の地域よりも低く、コカインのほとんどの乱用者は時折使用していることが示唆される。それにもかかわらず、オーストラリアでは廃水処理の測定から、低水準にあった 2022 年以降、コカイン消費量が大幅に増加していることが示されている。 > オーストラリアとニュージーランドの亜地域での「エクスタシーMDMA」の過去 1 年間の使用は、依然として世界で最も高い状態が続いている (15 歳から 65 歳人口の 2.5%)。これは廃水分析による MDMA レベルと一致する。 > 大麻使用率は、世界平均を大幅に上回っており、オーストラリアとニュージーランドの亜地域での 15 歳から 65 歳の大麻使用経験率は 11.9% である。 > 15 歳と 16 歳の学校の生徒の間での大麻使用経験率はオセアニアでは 12.9% であり、世界平均の 4.8% と比較して高い。 > オセアニア諸国では、静脈注射による薬物使用者の割合が世界平均より高い(0.5%、約 14 万人)。しかし、静脈注射による薬物使用者の HIV 感染率(1.5%)および C 型肝炎ウイルス感染率(17.5%)は、他の地域と比べてかなり低い。	> オセアニアでは、押収されたヘロイン量が増加し、2023 年には記録的レベルに達したが、2024 年になると減少した。押収されたヘロインのほとんどは東南アジア由来である。 > コカインの押収は 2023 年のピークレベルから 2024 年はわずかに減少したが、オセアニアで報告された量としては過去 3 番目に高い。 > コカインの 2020 年から 2024 年の押収動向からみると、オセアニア向けコカイン出荷は、南米だけでなく北米、ヨーロッパ、アジアからも送られている。南米以外の地域を通過することは、オーストラリアやニュージーランドでは薬物の価格が高いことによるものと思われる。 > 2024 年には、メタンフェタミンの押収件数が 2020 年から 2024 年の期間で最高水準に達したが、10 年前に比べると依然として低い水準である。 > メタンフェタミンはオセアニア内で生産されていると同時に東アジア、東南アジア、北米からこの地域に密輸もされている。1-フェニル-2-プロパノン(P-2-P)前駆体から製造されたメタンフェタミンの押収量が過去 10 年間で増加した。この事実は北米から(特にメキシコからまたは米国経由で)のメタンフェタミン密輸入の重要性が高まっていることを示唆している。	> オーストラリアでは、一般集団「エクスタシー」の日常的に使用する集団では、年間のメタンフェタミン使用量が減少しているが、薬物を静脈注射で使用する集団では、薬物使用がより集中的になり、より大きな害を引き起こしている。また、廃水分析から、4 年間にわたるメタンフェタミン消費量の増加傾向が示されている。 > ニュージーランドでは、近年、特に 2024 年後半に廃水中メタンフェタミン濃度が急激に増加している。 > オーストラリアとニュージーランドで薬物関連障害で治療を受けている者の 40% 以上が、メタンフェタミン使用障害の治療を受けている。 > オーストラリアとニュージーランドでは、薬物関連障害で治療を受けている者の多くで、主な懸念薬物は大麻である(2024 年は 32%)。この地域における非医療用大麻の年経験率はオーストラリアでは長期的には比較的安定している。一方、ニュージーランドでは比較的高いレベルで過去 8 年間変化がなく続いている。 > オーストラリアとニュージーランドの亜地域で薬物関連の治療を受けている者は、比較的若く、特にオーストラリアでは 52% が 35 歳未満である。 > 太平洋諸島は、主にオーストラリアとニュージーランド向けのコアイン、メタンフェタミンの中継地点として標的にされることが増えている。